取扱説明書及び部品表

Takakita

中型コンビラップマシーン

CW1084N

本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。

株式会社タカキタ

は　じ　め　に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**中型コンビラップマシーン**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

●お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
●製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
●この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
●本書は、 注意 製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
●なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合がございますので、あらかじめご了承ください。
●ご不明な点やお気付の点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠警 告 サ イ ン

⚠　印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠**危険**	**その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。**
⚠**警告**	**その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。**
⚠**注意**	**その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。**

目　　次

⚠ 安全に作業するために・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

本製品の使用目的とサービスについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

各部の名称とはたらき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

1. 各部 …… 21
2. モータ、センサ類 …… 22
3. 付属品 …… 24

トラクタへの装着・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

1. 装着のしかた …… 26
2. ユニバーサルジョイントの取付け …… 26
3. コントロールボックスの接続 …… 28
4. バックモニタの接続 …… 29

運転に必要な装置の取扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

1. コントロールボックスの取扱い …… 30
2. シリンダストッパの取扱い …… 34
3. ネットの取付け …… 34
4. 自動注油装置の取扱い …… 35
5. 油圧装置の取扱い …… 35
6. 安全装置の取扱い …… 36
7. ピックアップ装置の取扱い …… 37
8. 切断装置の取扱い …… 38
9. 底板ダウン装置の取扱い …… 38
10. ナイフの交換 …… 38
11. フィルムの装着のしかた …… 39
12. 梱包密度の設定 …… 40
13. 緊急停止スイッチ …… 40

作業方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

1. 作業前準備の流れ …… 41
2. 作業の流れ …… 42
3. 作業再開の流れ …… 43
4. 作業後の流れ …… 44
5. 拾い上げ方法 …… 45
6. 作業速度について …… 45
7. コーナーでの走り方 …… 45
8. 傾斜地での作業 …… 45

作業前の点検について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
点検一覧表…… 46

簡単な手入れと処置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
1. チェン張り調整…… 47
2. 切断ナイフの手入れ…… 47
3. タイヤの点検…… 47
4. 各部の注油・グリスアップ…… 48
5. 長期格納時の手入れ…… 50
6. センサ類の調整…… 50
7. マグネットの配置…… 52

不　調　診　断・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54

付　　表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
1. 主要諸元…… 58
2. 油圧回路…… 59
3. 配線図…… 60

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。
機械を貸すとき、または所有者以外が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

１．本機を使用するにあたって

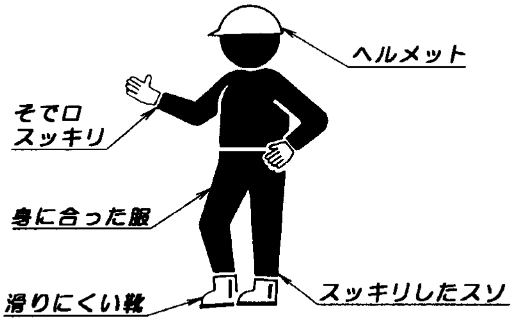
（１）使用する人の条件

次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

●飲酒したとき。
●過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
●妊娠しているとき。
●取扱方法を熟知していない人。

（２）使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



（３）適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

●適応トラクタ馬力

型　式	馬 力 kW(PS)
CW1084N	44. 1～73. 6(60～100)

●ロワーリンク規格 ：カテゴリⅠ・Ⅱ
●ＰＴＯ回転速度：450～540min^{-1}(rpm)
●電源用バッテリ：ＤＣ１２Ｖ

（４）装着時の前後のバランス確認

トラクタに装着(連結)した作業機の最大積載状態において、トラクタ前輪にかかる荷重は、総重量の20%以上前輪に作用していることが必要です。
もし、不足するときはトラクタ指定のフロントウエイトを取付けて、20%以上を確保するか、できなければ装着(連結)しないでください。

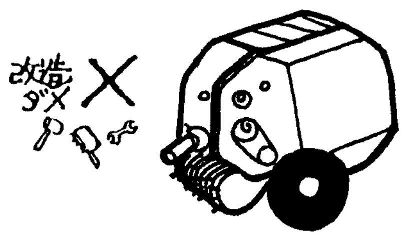
（５）バランスウエイトの取付け

トラクタのバランスウエイトは指定された部分に指定されたウエイト以外は取付けないでください。

（６）機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。
また、改造をしないでください。

⚠ 安全に作業するために



（７）**使用目的以外への使用禁止**

本機は稲ワラ、牧草、麦稈等をベール成形する作業を目的とした機械です。他の目的には使用しないでください。

（８）**機械を他人に貸すとき**

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。

２．点検・整備をしてください

（１）**１年毎の定期点検・整備を**

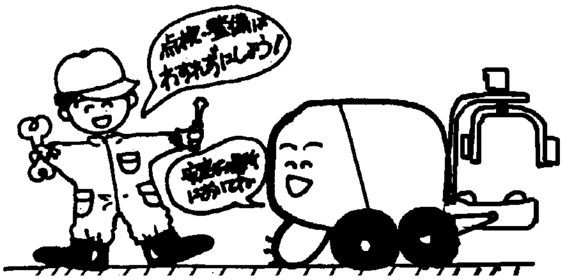
整備不良による不具合や事故を防止するために、１年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

（２）**作業前の点検・整備を忘れずに**

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

（３）**点検・整備・掃除をするとき**

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、PTOを切り、トラクタのエンジンを停止して、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。

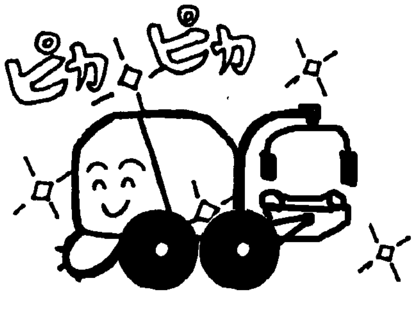


（４）**ナイフに注意すること**

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。

（５）**機械を常にきれいに**

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取除き、機械を常にきれいにしてください。



（６）排気ガスには十分注意

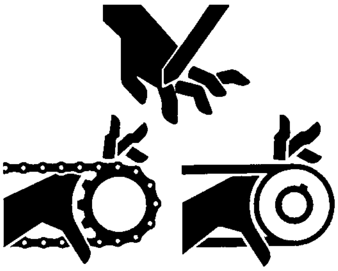
屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。

（７）カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずPTOを切り、エンジンを停止してから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



（８）注油・給油するときは

チェンへの注油は、必ずPTOを切り、エンジンを停止してから行ってください。

また、油圧パッケージへの給油は、高温のときには行わないでください。

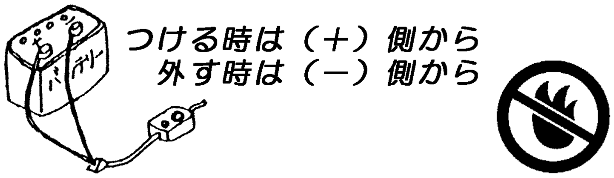
（９）コントロールボックスの電源脱着は

トラクタのバッテリより電源を取り出します。

その取付け方法は、(＋)側から行ってください。

外す時は、(－)側から行ってください。

逆にすると火花が飛び危険です。



（１０）タイヤの点検・修理をするときは

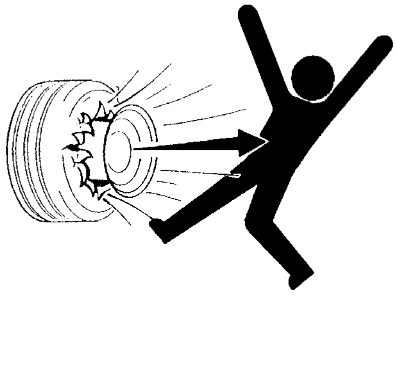
①タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。

②空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。

③タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は使用しないでください。

タイヤ破損の恐れがあります。

④タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店に依頼してください。

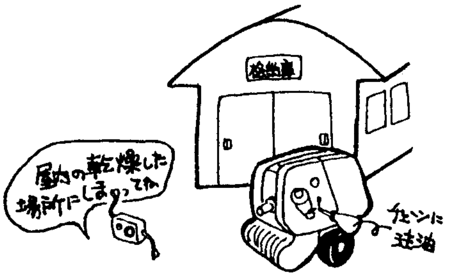


⚠ 安全に作業するために

（１１）長期格納するときは

機械を清掃し、回転部およびチェンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。

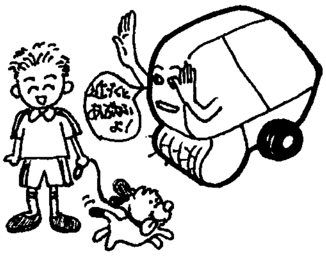
コントロールボックスはトラクタから取り外して屋内の乾燥した場所に保管してください。



３．作業・移動をするときは

（１）人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

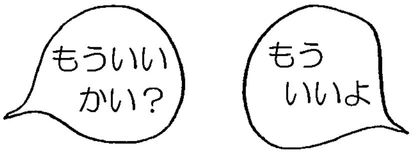


（２）ＰＴＯ回転中は危険です

回転部には近寄らない、触れないを守ってください。

（３）二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



（４）エンジンを始動するときは

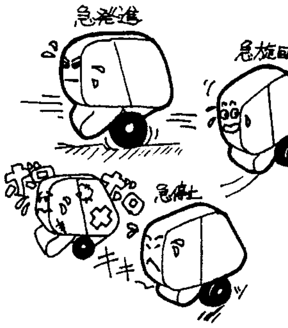
ＰＴＯを切り、変速レバーを中立にし周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。

守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

（５）急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

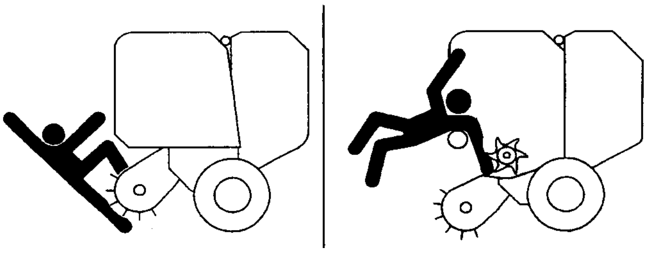
スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起状の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。



（６）回転中のピックアップドラムやタイトバーには触れない

回転しているピックアップドラムやタイトバーに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



⚠ 安全に作業するために

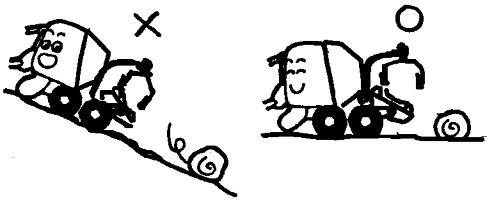
（７）傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

①等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。
斜面の作業は､必ず等高線に対して直角方向に走行してください。

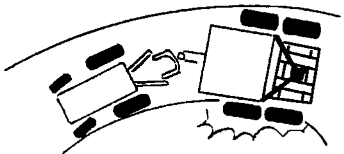
②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。守らないと、転倒する危険があります。

③傾斜地でのベール放出は、谷側にベールが転動して危険です。必ず平坦地まで移動して、安全な場所に放出してください。



（８）移動および作業の旋回のときは

トラクタに本機をけん引して旋回するときは､内輪差が生じるので十分注意してください。急旋回は危険ですので行わないでください。



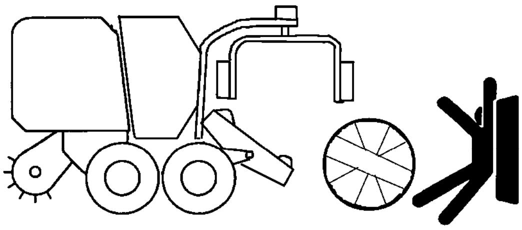
内輪差あり

（９）シェアボルトの交換や
巻き付き草などを取り除くときは

PTOを切り、エンジンを停止し、回転部が完全に停止してから行ってください。

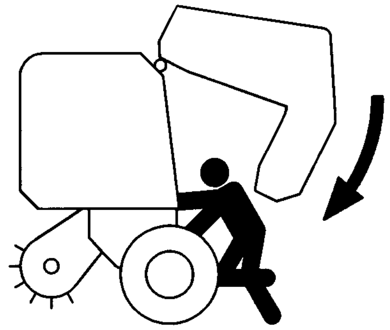
（１０）ベールを放出するときは

ベールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。



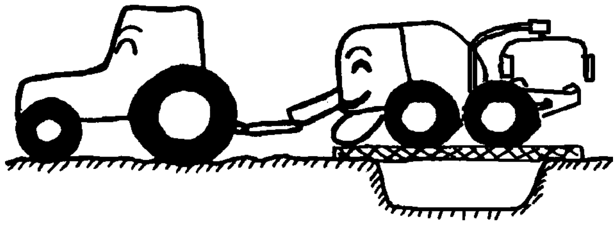
（１１）チャンバーを開けて作業するときは

シリンダストッパを必ず左右共にセットしてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



（１２）溝や畦を横断したり
軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



（１３）作業途中で運転席より離れるときは

平坦な場所に停車し、PTOを切りエンジンを停止し駐車ブレーキを掛け、本作業機側に車止めをしてください。

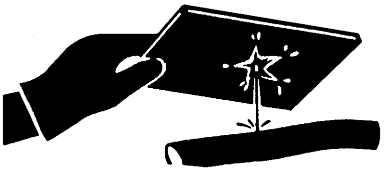
（１４）高圧油に注意してください

①圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。

②高圧油による傷害を防止するために配管・ホースなどの取り外し前には必ず残圧を抜いてください。

③圧力をかける前に配管・ホースなどは正しく確実に締付けてください。

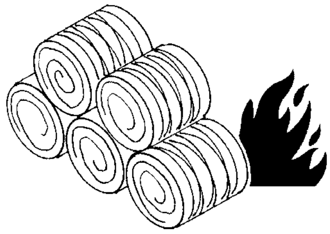
④非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。
手で油漏れを探すことは止めてください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。



⑤万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こす恐れがあるので、すぐ医療機関を受診してください。

（１５）乾草火災に注意

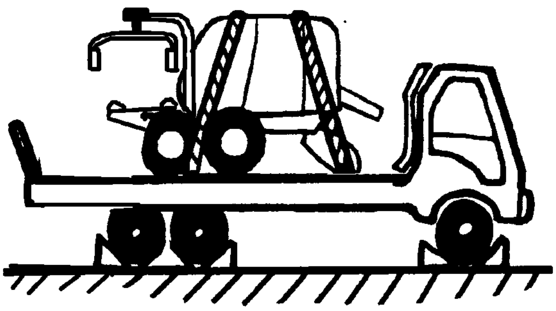
乾燥不十分な牧草をベールに成形すると、ベール内部からの発火により火災が発生する危険があります。
ベール成形後２～３日間は、風通しの良い屋外に仮置きした後、屋内に収納してください。



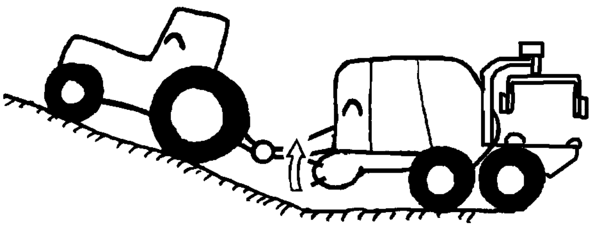
４．輸送するときは

（１）トラックなどへの積み込み・降ろしは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを停止しサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。
積み込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



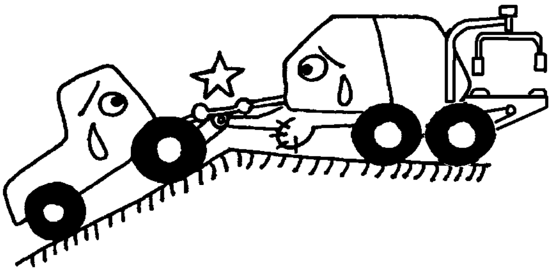
特にほ場から出入りする場合は、ピックアップの破損事故が起こりやすいので、コントロールボックスを操作し、ピックアップを上げてください。



（２）ロワーリンクを上げた時はＶヒッチとジョイントが当たらない事を確認してください

①ロワーリンクを上げ過ぎないでください。

②ロワーリンクを上げたままほ場の出入りを行う際、トラクタとロールベーラの姿勢が変化してＶヒッチとジョイントが近接し、ぶつかる恐れがありますので注意してください。



そうしないと、ジョイントや本機の破損の原因となります。

以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

5．公道走行するときは

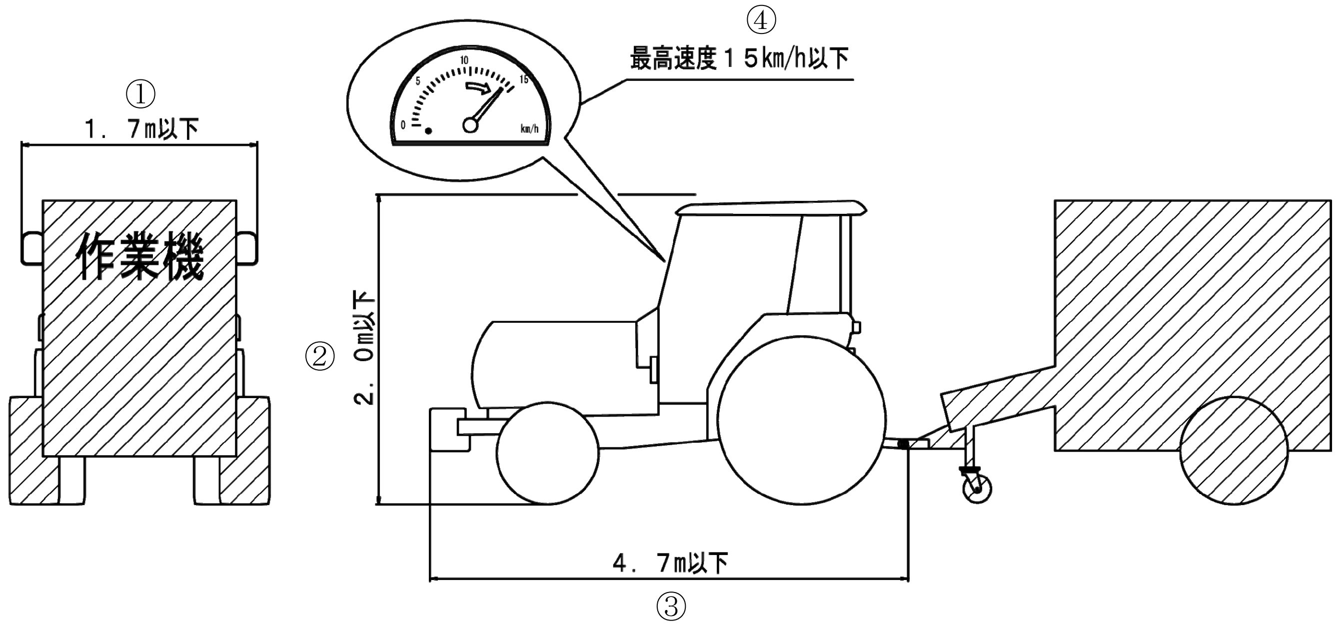
農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。必要な対応をすることで、けん引タイプの作業機で公道を走行することができます。公道走行をする際は、下記項目を確認したうえで必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

（１）必要な運転免許証について

トラクタの寸法が下表①～③の数値以内で④最高速度15km/h以下の場合は小型特殊免許で運行可能になりますが、下表①～④の数値をひとつでも上回る場合、大型特殊免許(農耕用に限る、も含む)とけん引免許(農耕用に限る、も含む)が必要となります。ただし、車両総重量750kgを超えない農耕作業用トレーラをけん引する場合、けん引免許（農耕用に限る、も含む)は必要ありません。

① 全幅1．7m	② 全高2．0m（安全キャブや安全フレームは2．8m）
③ 全長4．7m	④ 最高速度15km/h以下

下図を参考にご確認ください。



（２）保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

いずれの場合も農耕作業用トレーラ、農耕トラクタの使用者が保安基準適合性を確保する必要があります。

けん引車の農耕トラクタの種別	農耕作業用トレーラの種別と手続き
小型特殊自動車	［小型特殊自動車］ ①一般的な大きさのもの　※１ ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要はありません。 ②全幅が2．5mを超えるもの ・道路管理者（地方整備局、各都道府県、各市町村等）に対し、個別に特殊車両通行許可を受ける必要があります。 ③長さが12mまたは全高3．8mを超えるもの ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。
大型特殊自動車 （自動車検査証にけん引時の速度制限の基準緩和を受けた旨の記載があるもの）	（同上）
大型特殊自動車 （上記以外のもの）	［大型特殊自動車］ ①一般的な大きさのもの　※２ ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ②長さが12mまたは高さが3．8mを超えるもの、その他オーバーハング等の基準を超えるもの ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。

※１　全幅2．5m、全長12m、全高3．8mを超えない大きさのもの

※２　農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結全長が12mを超える場合、道路管理者（地方整備局、地方自治体等）から、特殊車両通行許可を受ける必要があります。

（３）灯火器類・ステッカーの取付け

下記フローチャート①～③をそれぞれについて全てご確認いただき、必要に応じて公道走行を行うための追加装備を取付けてください。

①トラクタの大きさ、最高速度による灯火器取付け位置

けん引をするトラクタは全長4．7m以下、全幅1．7m以下、全高2．0m以下、かつ最高速度15km/h以下か。

ＹＥＳ

前面：Ａ．前部反射器
後面：Ｂ．後部反射器
　　　Ｄ．方向指示器
を取付ける必要があります。
※車幅灯、尾灯、制動灯、および後退灯は取付け義務がないので備える必要はありません。

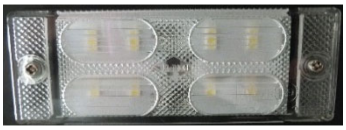
次頁の取付け例１を参照してください。

ＮＯ

前面：Ａ．前部反射器
　　　Ｃ．車幅灯
後面：Ｂ．後部反射器
　　　Ｅ．コンビネーションランプ
　　　Ｆ．後退灯
を取付ける必要があります。
※トラクタと農耕作業用トレーラの連結全長が６ｍ未満の場合は、農耕作業用トレーラの後面方向指示器は必要ありません。

次頁の取付け例２を参照してください。

A.前部反射器	B.後部反射器	C.車幅灯	D.方向指示器

E.コンビネーションランプ	F.後退灯
	

●装備の取付け位置

・道路運送車両の保安基準により、各種灯火器類の取付け位置は定められています。

○前部反射器(リフレクター)	最外側から40cm以内、高さは地上25cm以上150cm以下
○後部反射器(リフレクター)	最外側から40cm以内、高さは地上25cm以上150cm以下
○車幅灯(ポジションランプ)	最外側から15cm以内、高さは地上25cm以上210cm以下
○方向指示器(ウインカー)	最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上230cm以下
○尾灯(テールランプ)	最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
○制動灯(ブレーキランプ)	最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
○後退灯(バックランプ)	高さは可能な限り25cm以上120cm以下

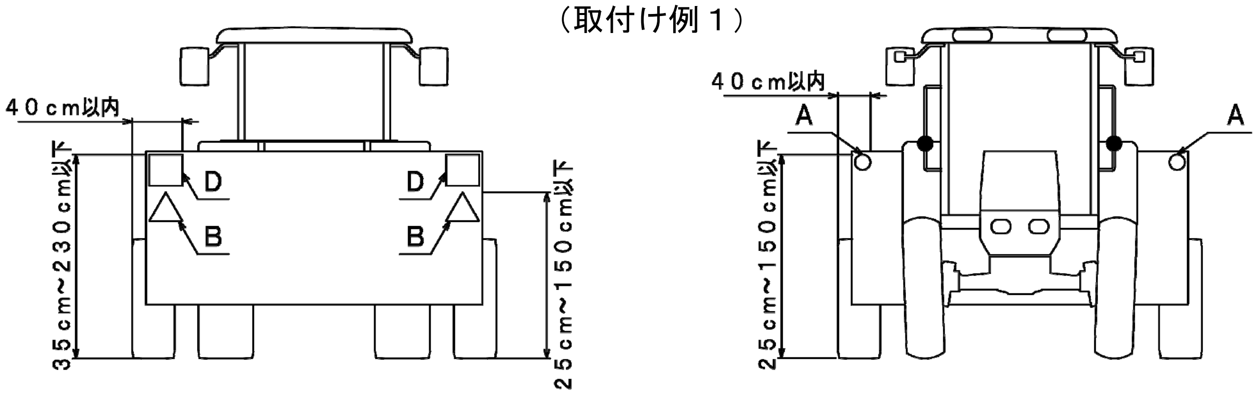
・車幅灯は前方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。

・コンビネーションランプ※は後方から確認(視認)できる位置に上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。

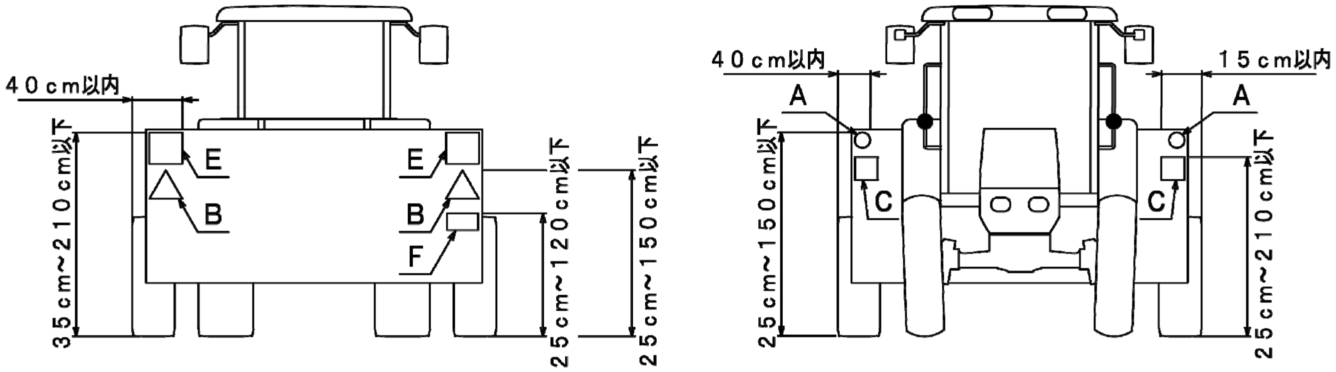
・後退灯は後方から確認(視認)できる位置に上記条件を満たすように取付けてください。

※コンビネーションランプ・・・方向指示器、尾灯、制動灯が一体化したもの

（取付け例１）



（取付け例２）



②トラクタの運行速度

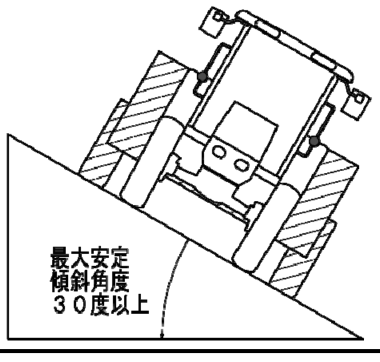
トラクタの運行速度が15km/hを超えて走行が可能か。

- YES → 最大安定傾斜角度が30度以上又は、35度以上。
  - YES → 基準に適合した制動装置を備えているか。
    - YES → ②での追加装備は必要ありません。
    - NO → 後面：G．制限標識／H．速度制限表示／トラクタ後面：Ｉ．速度制限表示を取付け、15km/h以下で走行する必要があります。
  - NO → 後面：G．制限標識／H．速度制限表示／トラクタ後面：Ｉ．速度制限表示を取付け、15km/h以下で走行する必要があります。
- NO → ②での追加装備は必要ありません。

●最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度15km/h 以下で走行してください。

＜安定性に関して＞

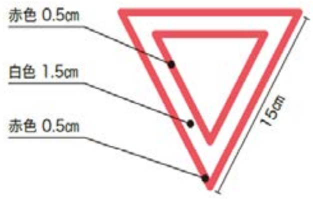
作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が30度以上または、35度以上(車両総重量が車両重量の1．2倍以上または、積載により重心高さが上がるもの)であれば、通常の速度で道路走行できます。
上記条件を満たない場合は、
・運行速度15km/h以下での道路走行
・道路走行をする際に、Gを作業機後面に表示、
　Hを作業機後面に表示、
　Ｉをトラクタ後面・運転席に表示
を行う必要があります。



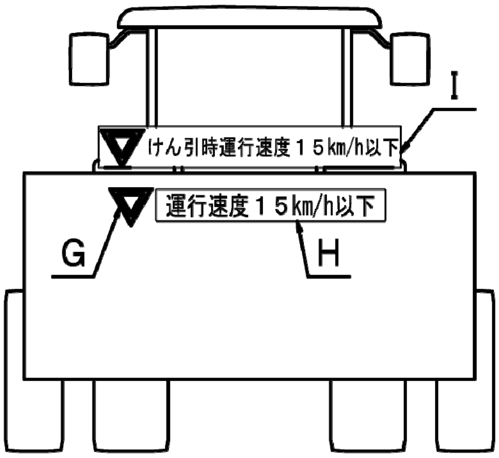
●装備の取付け位置

・G、H、Ｉは後方から確認できる位置に取付けてください。

・Ｉは運転席にも表示する必要があります。

G. 制限標識	H. 速度制限表示（作業機側）
	運行速度15km/h以下
I．速度制限表示（トラクタ側）	
けん引時運行速度15km/h以下	

（取付け例）

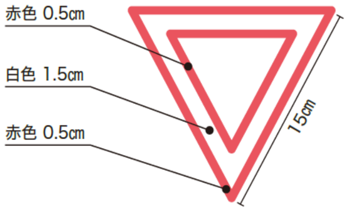
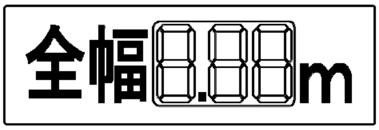


③作業機装着時の全幅

けん引作業機の全幅が2．5m以下

YES → ③での追加装備はありません。

NO → 前、後面：K. 外側表示板
後面：G. 制限標識
J．全幅表示
を取付ける必要があります。

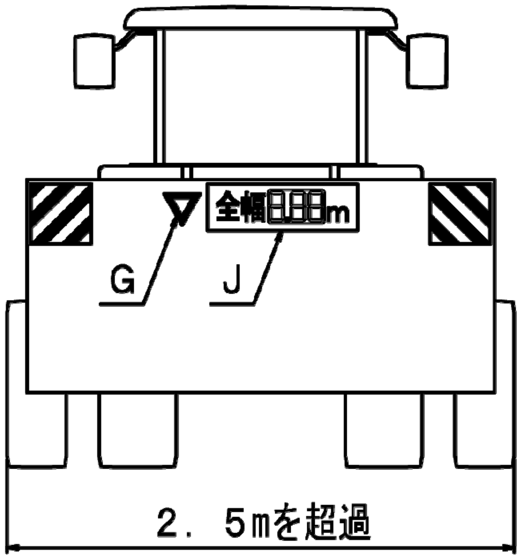
G. 制限標識	J．全幅表示	K. 外側表示板
		

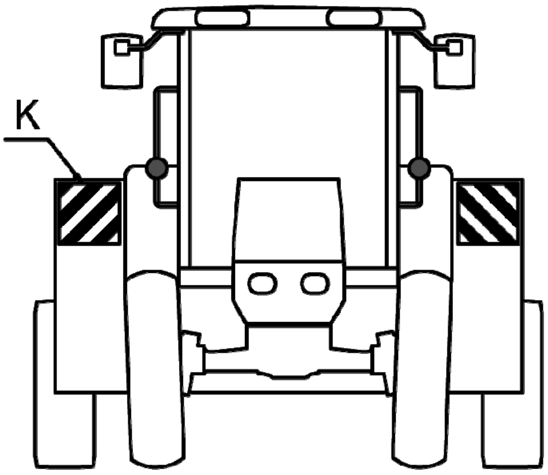
●装備の取付け位置

・G、Ｊは後方から見やすい位置に取付けてください。

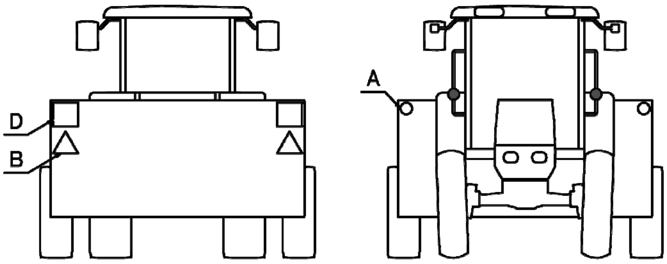
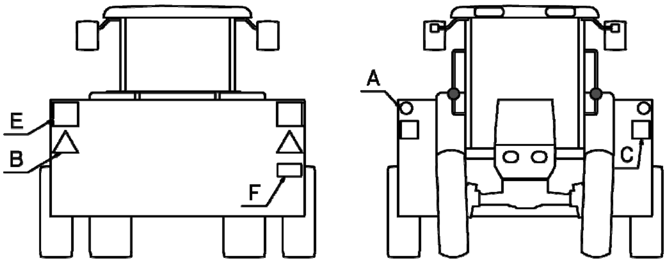
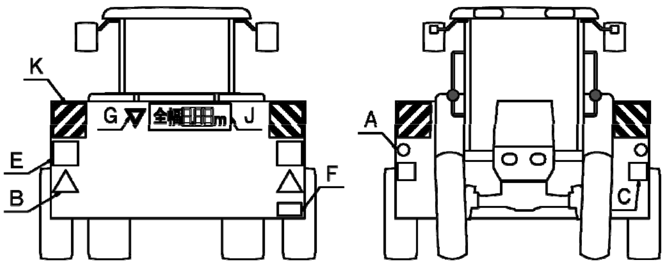
・Kは前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。

（取付け例）





灯火器類・ステッカー取り付け例

灯火器取付け位置	条件	取り付け例
灯火器取付け位置 車幅灯 前部反射器 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器 後退灯	全長４．７m以下、 全幅１．７m以下、 全高２．０m以下、 最高速度１５km/h 以下の場合	（ア） 
	上記の寸法 または最高速度 １５km/hを1つでも 上回る場合	（イ） 
	全幅が２．５mを 超える場合	（ウ） 

灯火器・ステッカー

A.前部反射器

B.後部反射器

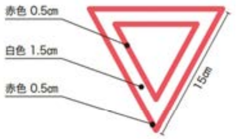
C.車幅灯

D.方向指示器

E.コンビネーションランプ

F.後退灯

G.制限標識



H.速度制限表示
（作業機側）

I.速度制限表示
（トラクタ側）

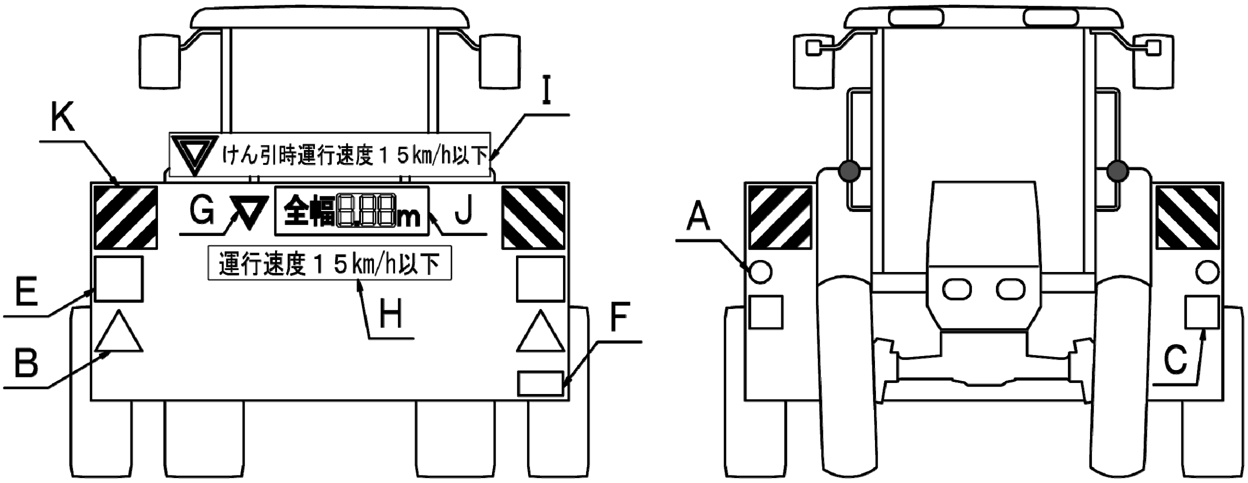
J.全幅表示

K.外側表示板

※全幅2．5mを超過する場合は、道路管理者(国道：地方道路局、県道：各都道府県、市道：各市町村)から特殊車両通行許可を得る必要があります。

●p.12「②トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。

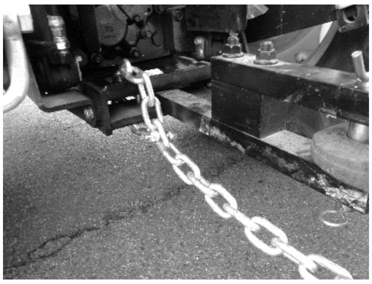
例：（ウ）に速度制限表示を追加

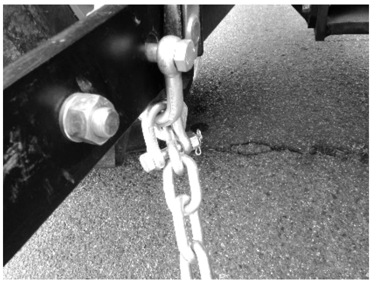


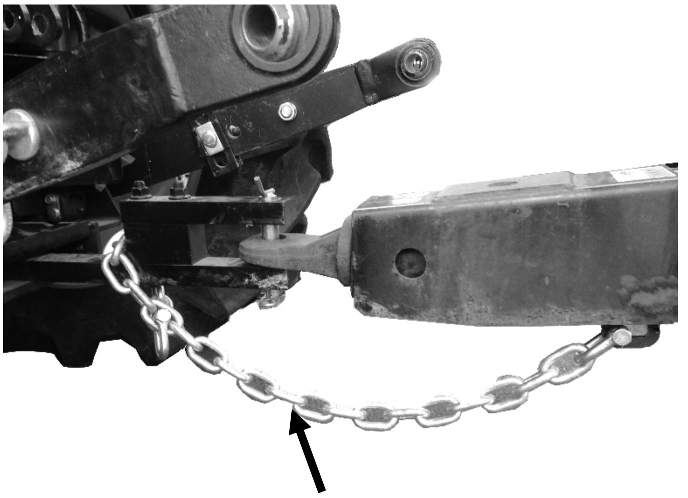
●灯火器類取付けの際には、トラクタの操作と連動して点灯することを確認後に公道走行を行ってください。また、灯火器類・ステッカーが汚れたときは視認できるように掃除をしてください。

（４）農耕作業用トレーラの構造要件（分離時の連結維持構造）に関して

農耕トラクタが農耕作業用トレーラをけん引した際に、不意に連結装置（ドローバ等）が分離したときでも農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結を保つことができる構造でなければ道路走行できません。セーフティチェーン等を備え、けん引時にはセーフティチェーン等をねじ止め等でつないで道路を走行してください。





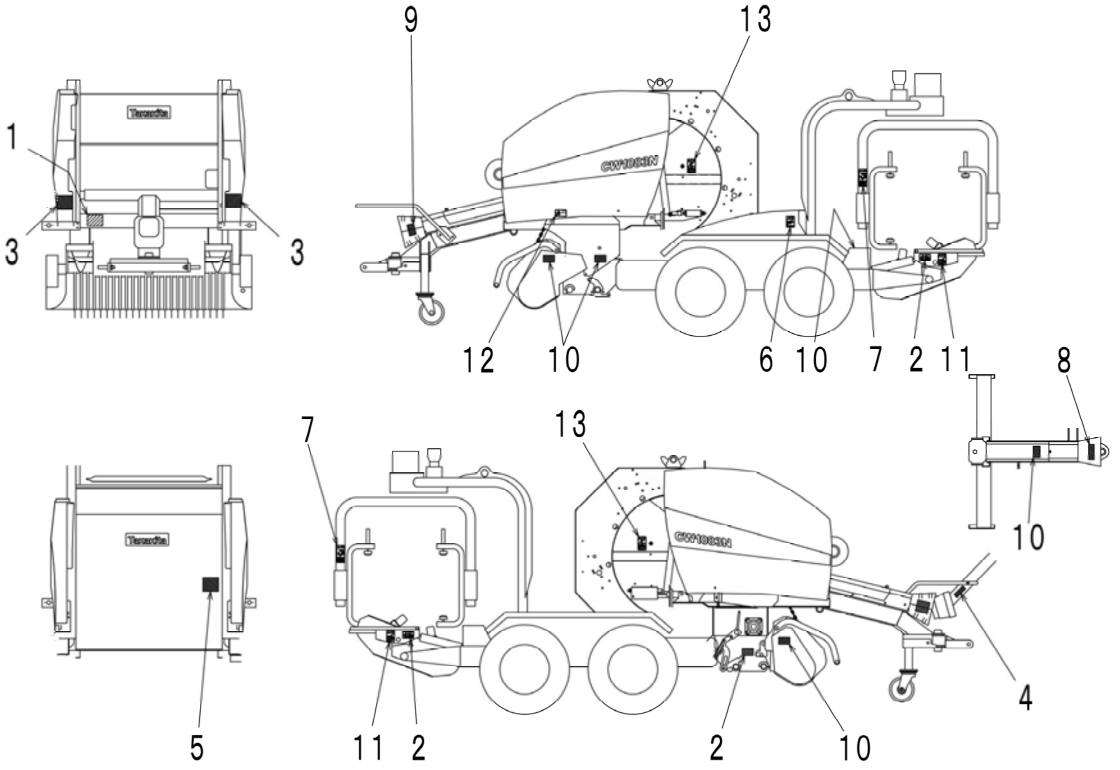


セーフティチェーン

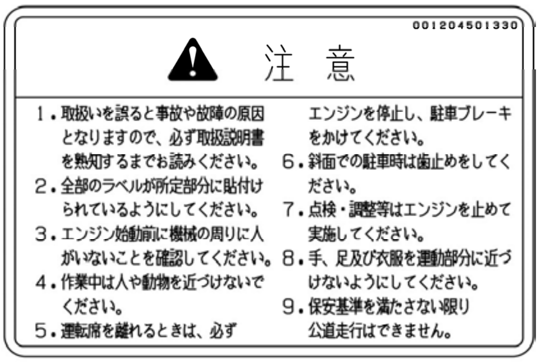
詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(http://www.jfmma.or.jp/koudo.html)をご覧ください。

その他不明な点は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

５．警告ラベルの貼付け位置



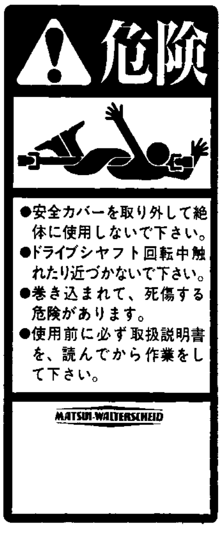
①部品コード　001204501330



②部品コード　001206000561

③部品コード　001206000180

④部品コード　001306951010

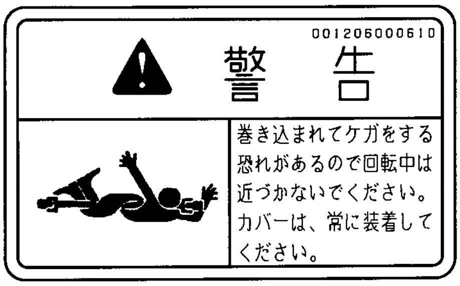


⑤部品コード　001206000310

⑥部品コード　001306000190

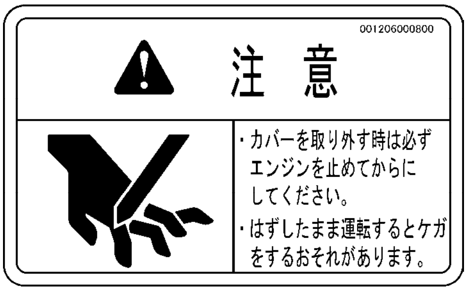
⑦部品コード　001206000372

⑧部品コード　001206000610



⑨部品コード　001206000750

⑩部品コード　001206000800



⑪部品コード　001306000790

⑫部品コード　001206001690

⑬部品コード　001206001440

警告ラベルの取扱い注意事項

（１）警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。

（２）傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し、新しいラベルを元の位置に貼ってください。
（ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。）

（３）警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。

（４）新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

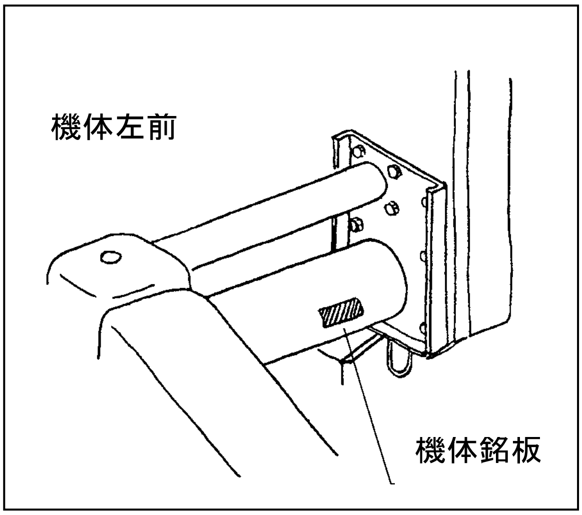
本製品の使用目的について

本製品は、稲ワラ、牧草、麦稈等をベール梱包する作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、ＪＡ（農協）、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。

（機体銘板貼付け位置図）



【連絡していただきたい内容】

●品名と型式
●機体No.（ＳＥＲ－Ｎｏ）
●ご使用状況は？
（どんな条件でどんな作業をしていたときに）
●どれくらい使用されましたか？
（約○○アール、または約○○時間使用後）
●不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体№は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

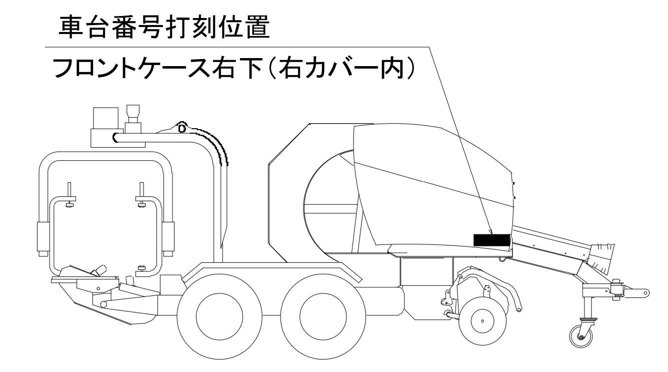
【今後参考のため、次の空欄に機体No. などを記入しておいてください。】

品　　名	中型コンビラップマシーン	
型　　式	ＣＷ１０８４Ｎ	
機 体 №. （SER－№.）		
購入年月日	年　　月　　日	
販売店名	TEL：　　（　　）	

車台番号について

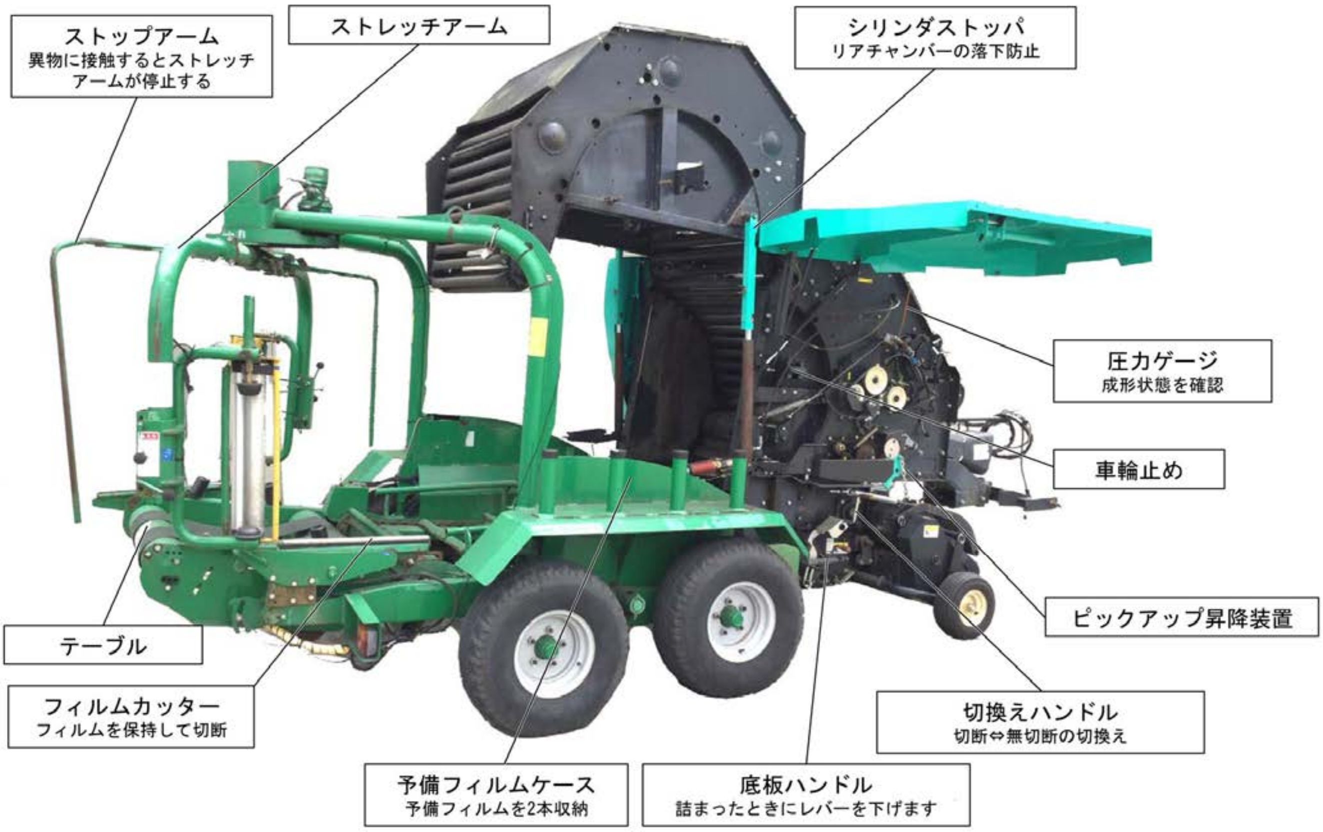
本製品には、上記機体No.と関連させて機械の同一性を管理する車台番号が打刻されています。
打刻位置と打刻形式は右図を参照ください。

車台番号
CW1083-＊＊＊＊

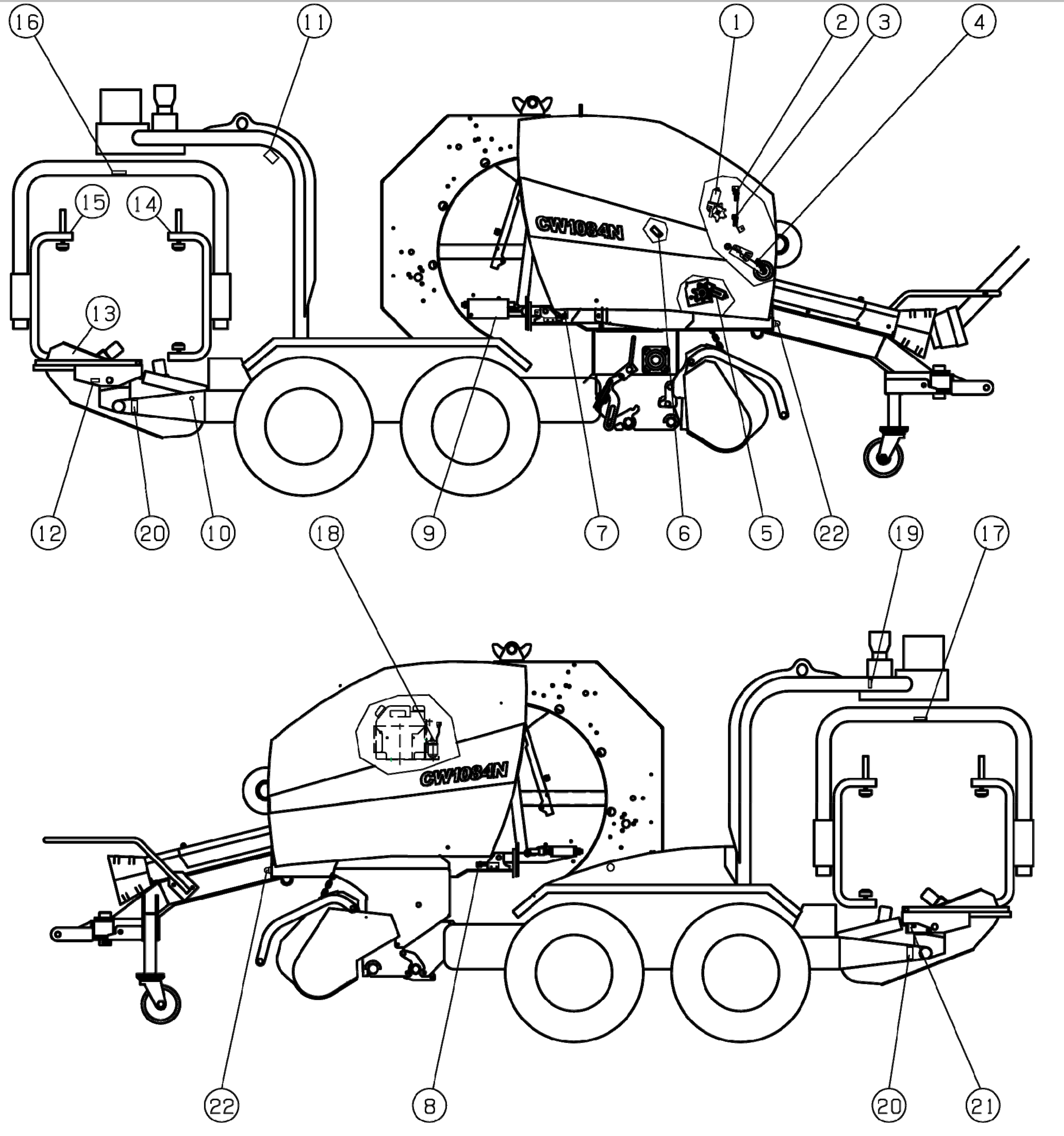


各部の名称とはたらき

1．各部



2．モータ、センサ類



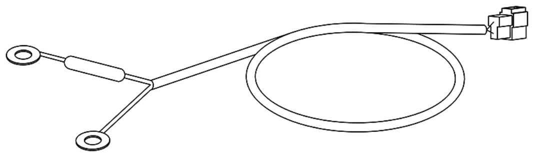
No.	名称	用途
①	ネット繰出しモータ	・ネットを繰り出します。
②	カム上センサ	・カムの位置を検出します。
③	カム下センサ	・カムの位置を検出します。
④	カウントセンサ	・ネットの巻き数を検出します。
⑤	ピックアップモータ	・ピックアップを上下させます。
⑥	PTOセンサ	・PTO回転速度（min^{-1}）を検出します。
⑦	チャンバー閉右センサ	・チャンバーが閉まり、右側のチャンバーロックがかかったことを検出します。
⑧	チャンバー閉左センサ	・チャンバーが閉まり、左側のチャンバーロックがかかったことを検出します。

各部の名称とはたらき

No.	名称	用途
⑨	満了感知センサ	・チャンバー内が満了になったことを検出します。
⑩	コンベアセンサ	・コンベアの停止位置を検出します。
⑪	バックカメラ	・機体後方およびラップマシーンの作業状態をバックモニタに表示します。
⑫	テーブル中間センサ	・テーブルがラップ作業位置にあることを検出します。
⑬	ベール検出センサ	・テーブルにベールが載ったことを検出します。
⑭	フィルム切れ1センサ	・フィルムが無くなったことを検出し、ストレッチアームの動きを一時停止させます。
⑮	フィルム切れ2センサ	・フィルムが無くなったことを検出し、ストレッチアームの動きを一時停止させます。
⑯	ストレッチアーム ストップ1センサ	・ストレッチアームに異物がぶつかったことを検出し、ストレッチアームを一時停止させます。
⑰	ストレッチアーム ストップ2センサ	・ストレッチアームに異物がぶつかったことを検出し、ストレッチアームを一時停止させます。
⑱	注油ポンプ	・タイトチェンに注油します。
⑲	ストレッチアーム 初期位置センサ	・ストレッチアームが初期位置にあることを検出します。 ・ストレッチアームの回転をカウントします。
⑳	テールランプセット	・左右ウインカ、ブレーキランプ、後部反射器
㉑	バックランプ	・後退するときに点灯します。
㉒	ポジションランプ	・尾灯と共に点灯します。

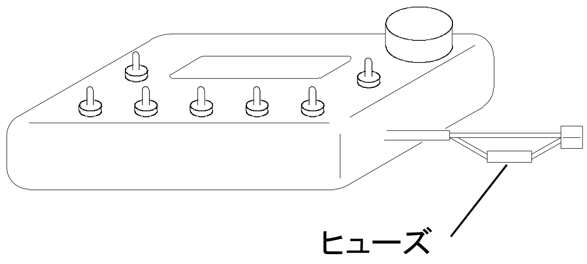
各部の名称とはたらき

3．付　属　品



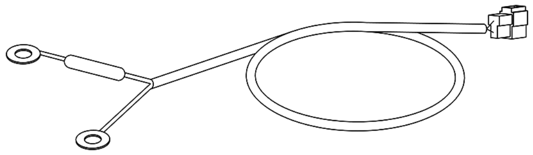
コントロールボックス用電源コード（太）

バッテリより電源を取り出します。
12V専用。30Aヒューズ付。



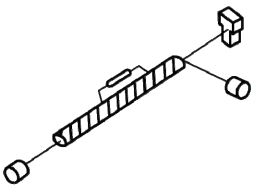
コントロールボックス

成形感知、チャンバー開閉などの動作を
手元で行います。20Aヒューズ付。



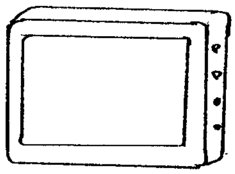
モニタ用電源コード（細）

バッテリよりモニタの電源を取り出し
ます。30Aヒューズ付。



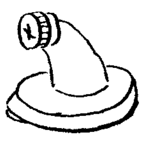
モニターケーブル

モニタと電源・カメラを接続するケーブル
です。5Aヒューズ付。



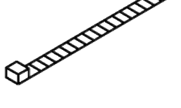
バックモニタ

機体後方およびラップマシーンの作業状態
を確認するのに使います。



取り付け台

バックモニタを取り付けるために使用します。

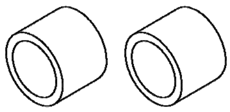


リピートタイ

トラクタと作業機間の配線を固定します。

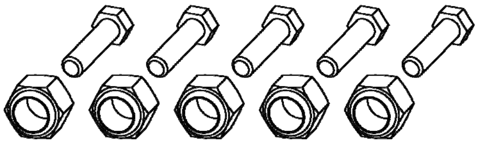
逆転ハンドル　　１本

機体を牽引した状態で公道を走行する場合
トラクタ後面に貼付けてください。



Ⅰ・Ⅱ兼用カラー

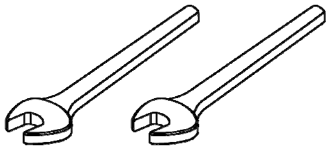
カテゴリⅡのトラクタの場合、ロワーリンク
ピンに入れて使用します。



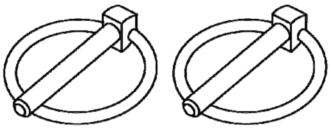
ロールベーラシェアボルトセット

・M8×30(8T全ネジ)
部品コード(01318－5080－300)と
M8タフロックナットが10セット。

・M8×40(8T半ネジ生地)
部品コード(01118－2080－400)と
M8フニロンが10セット。

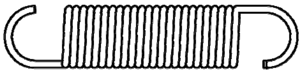


スパナ　２本

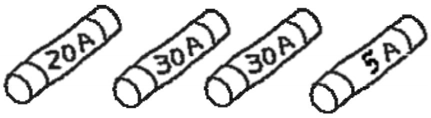


リンチピン１０　２ケ

オイルサシ　１ケ

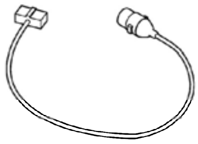


ブレーキバネ　１ケ

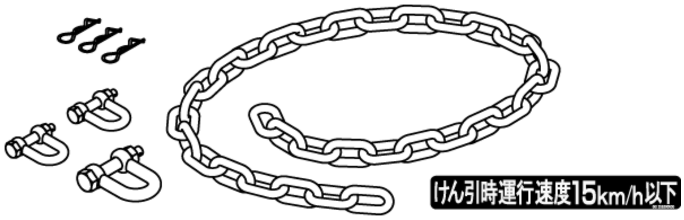


ヒューズ

・20A　1ケ
・30A　2ケ
・ 5A　1ケ



テールランプヘンカンハーネス　１ケ



公道走行用チェーンおよびシャックル

・チェーンφ11(1.5m)　1ケ
・ボルトシャックル 12　2ケ
・ボルトシャックル 14　1ケ
・トラクタ用速度制限ステッカー

トラクタへの装着

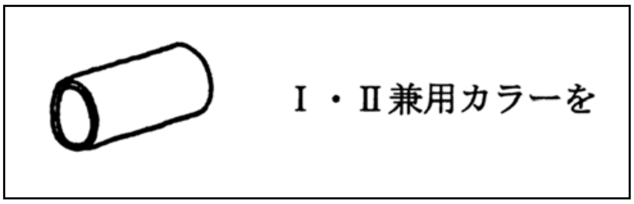
⚠ 警告

●トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
●二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
●ユニバーサルジョイントは、必ずトラクタのエンジンを停止し、PTOを切ってから確実に接続してください。
以上のことを守らないと傷害発生のおそれがあります

１．装着のしかた

◆装着順序

左ロワーリンク、右ロワーリンクの順序で取り付けてください。
カテゴリⅡのトラクタには付属のⅠ・Ⅱ兼用カラーを取り付けてください。

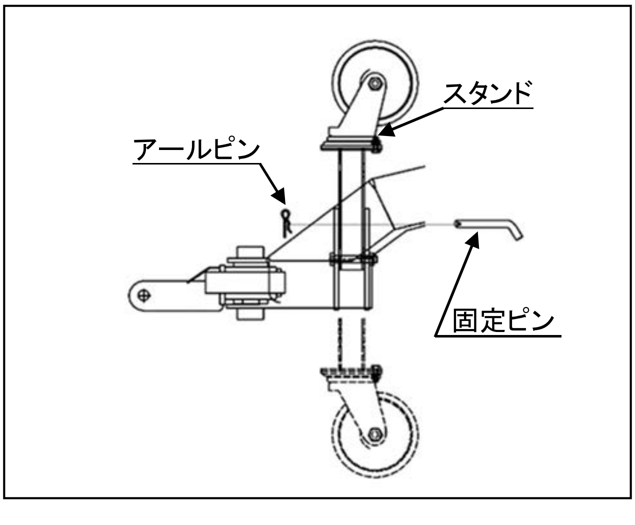


◆チェックチェンで横振れ調整

運転時および作業時、本機の横振れを防止するために、チェックチェンでトラクタ中心にロワーリンクが左右に２～３cm程度の振れになるよう、調整してください。

◆スタンドを上げる

ロワーリンクでヒッチを少し上げてからスタンドを上げてください。



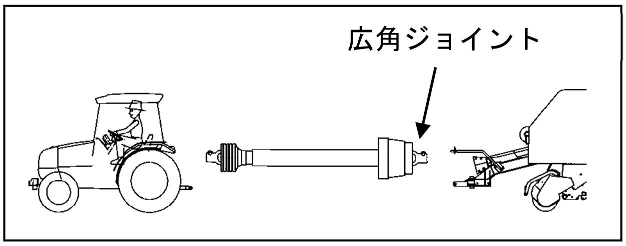
２．ユニバーサルジョイントの取付け

◆取付け順序

本機入力軸に取り付けてから、トラクタPTO軸に確実に取り付けてください。

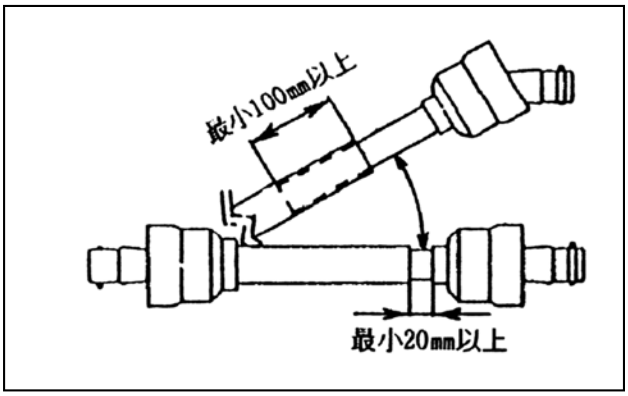
注 意

本機側は広角ジョイント付です。
逆に取付けるとジョイントが破損する恐れがあります。



◆ユニバーサルジョイントの長さ確認

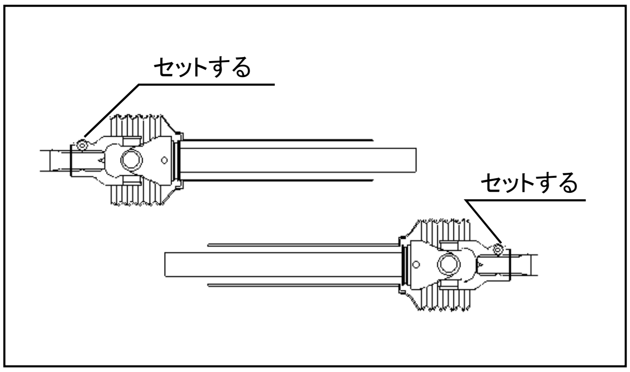
ジョイントの長さはロワーリンクによる本機の上昇・下降により変化します。
先にジョイントの長さを確認してください。
長すぎるときは、下図の寸法が確保できるように切断してください。



トラクタへの装着

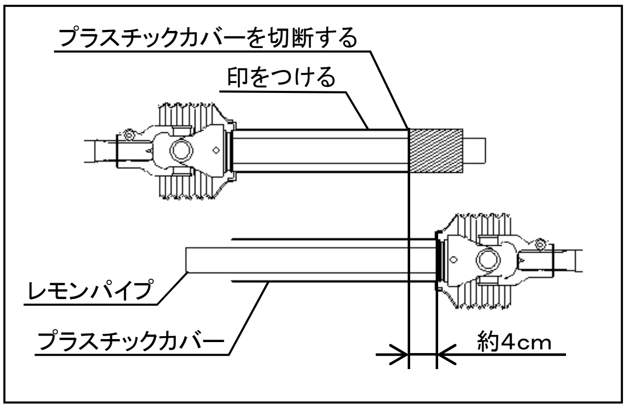
◆ユニバーサルジョイントの切断方法

①ユニバーサルジョイントを半分ずつトラクタと作業機にセットします。

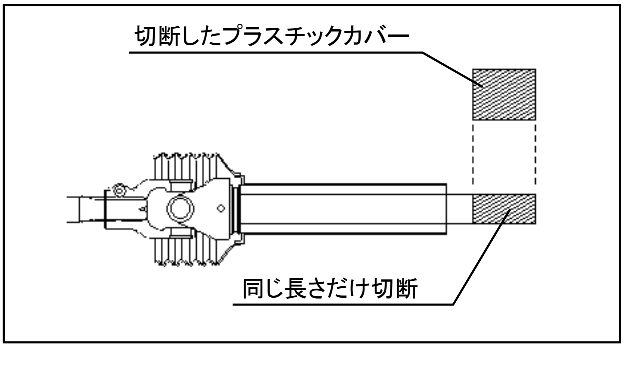


②ロワーリンクを上下して一番短くなるところで互いに合わせます。

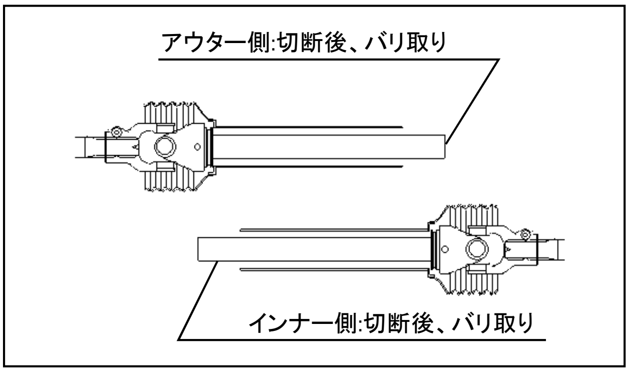
③プラスチックカバーの重なりより約4cm内側に印をつけ、ユニバーサルジョイントを外します。



④印をつけたところからプラスチックカバーを切断します。
切断したプラスチックカバーと同じ長さだけ、もう一方のプラスチックカバーとレモンパイプのアウター、インナーをそれぞれ切断してください。



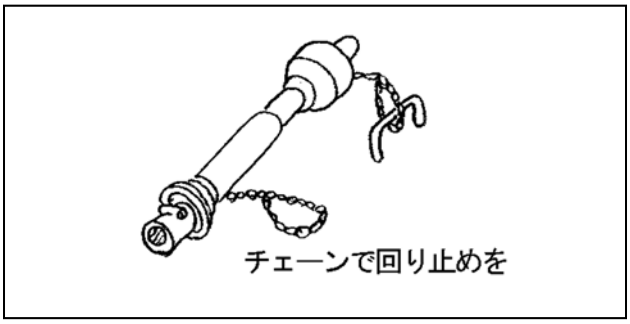
⑤アウター、インナー両方のバリ取りを行い切り粉を掃除した後、スムーズにスライドすることを確認してください。



⑥インナーの外側にグリスを塗って再度組んでください

◆カバー回転止めチェーンで固定を

ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけて、しっかりと固定してください。



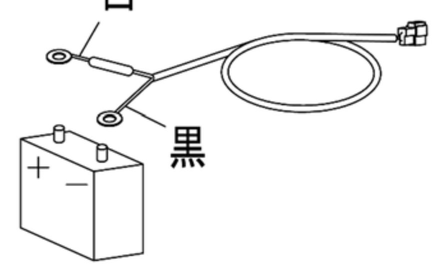
3．コントロールボックスの接続

◆電源はトラクタのバッテリから取り出します

◆接続できるバッテリの電圧は12Vです

24Vのバッテリに接続しないでください。

間違って接続すると、コントロールボックス内部および電気系統が破損するおそれがあります。



◆（＋）、（－）の接続を間違えないように

白色線はバッテリの（＋）へ接続

黒色線はバッテリの（－）へ接続

注 意

（＋）、（－）の接続を間違えると、コントロールボックスの液晶は表示されません。

⚠警 告

接続の順序は、（＋）側から行ってください。

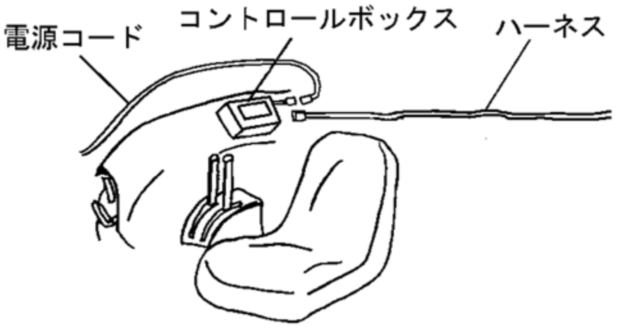
また、取り外すときは、（－）側から行ってください。

逆にすると、火花が飛び危険です。

◆コントロールボックスの取り付け

コントロールボックスの裏側に吸盤を装着しています。

操作のし易いように、トラクタの運転席右側に取り付けてください。



◆配線の接続

電源コード（太）とベーラからのハーネスをコントロールボックスに接続します。

配線が作業の邪魔にならないようにトラクタに固定してください。

◆バッテリの容量チェック

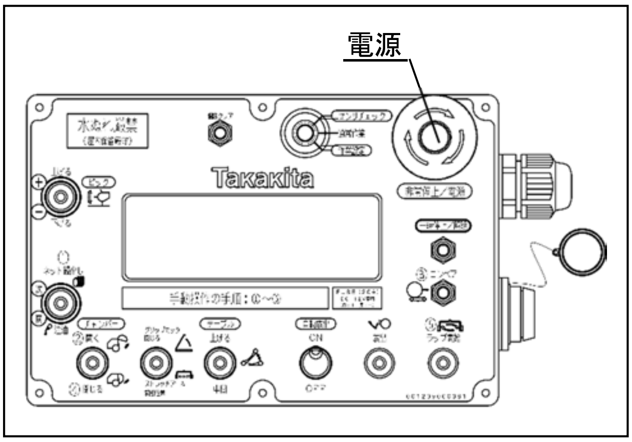
トラクタのエンジンをかけて、エンジン回転数を上げてください。

コントロールボックスの電源を入れるとバッテリの容量チェックを行います。エラーが表示された場合、トラクタの取扱説明書に従ってバッテリを充電または交換してください。

再度、コントロールボックスの電源を入れることでバッテリの容量チェックを行うことができます。

注 意

バッテリの容量が不足すると正常な動作ができなくなりますので、エラーが表示された場合は、バッテリを充電・交換してください。



●液晶が表示されないときは、電源コードのヒューズが切れていないか、バッテリの（+）と（−）が逆になっていないか、コネクタがきちんと差し込まれているかを確認してください。

◆**作業終了後は取外して屋内に保管**

作業終了後は、電源コード側のコネクタおよびベーラからのハーネスを切り離し、水等がかからない屋内に保管してください。

４．バックモニタの接続

◆**電源はトラクタのバッテリから取出します**

◆**接続できるバッテリの電圧は12Vです**

◆**バックモニタの取り付け**

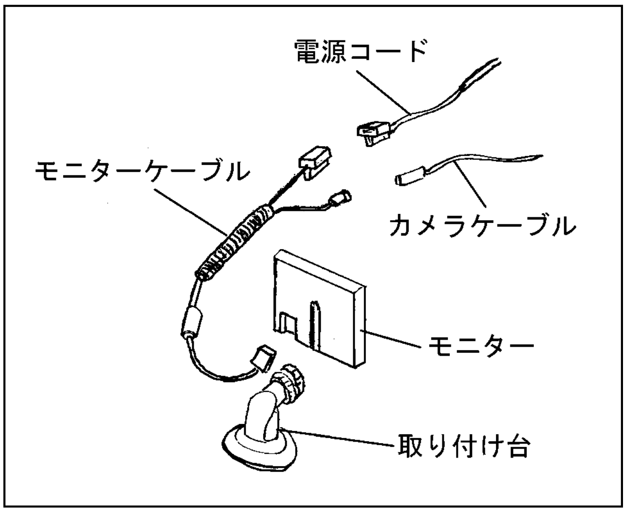
付属の取り付け台の取扱説明書を参考に、運転に支障が出ず見やすい位置に確実に取り付けてください。

●取り付け台の吸盤にはカバーを貼付しておりますので、使用する際はカバーを外してください。また、使用後はカバーを取り付けて吸着力が下がらないようにしてください。

◆**配線の接続**

ベーラからのハーネスと電源コード（細）をそれぞれモニタのハーネスに接続します。

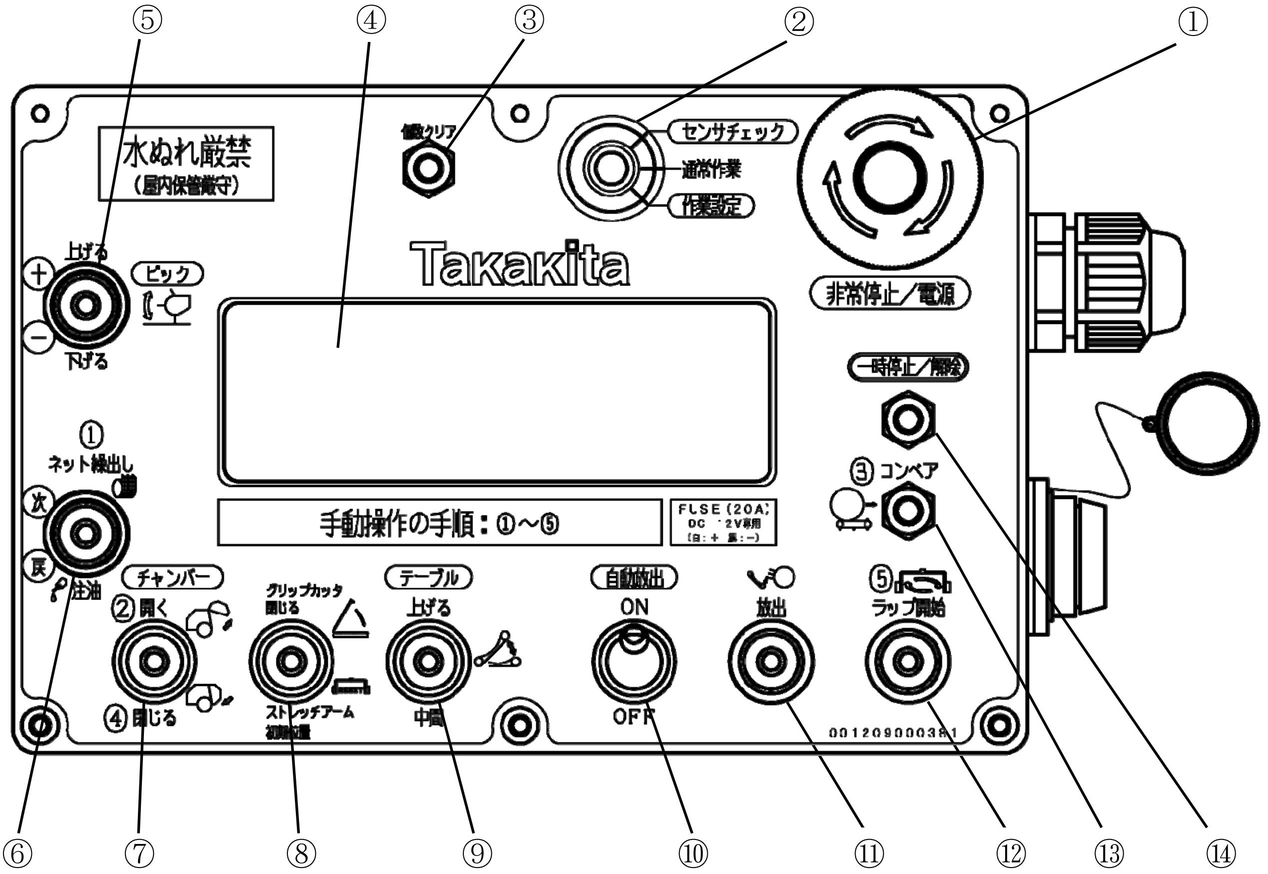
配線が作業の邪魔にならないように
トラクタに固定してください。



運転に必要な装置の取扱い

1．コントロールボックスの取扱い

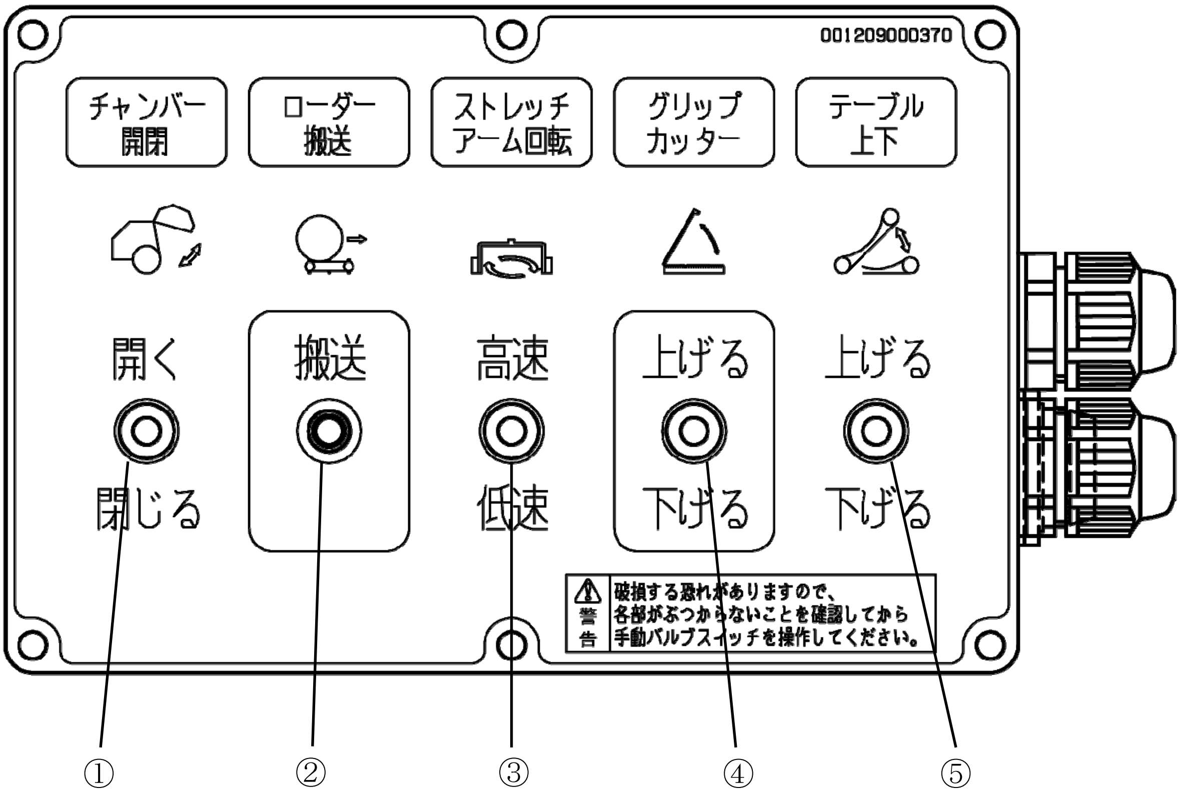
◆トラクタ側コントロールボックス



No.	名称	用途
①	非常停止／電源	・電源を入／切します。 ・緊急に電気制御を停止したいときに押します。
②	切換スイッチ	・「センサチェック」「通常作業」「作業設定」モードを切換えます。 ※満了感知できませんので、作業時は「通常作業」にしてください。
③	累積クリア	・累積個数を0にします。
④	液晶画面	・作業状態やエラー内容を表示します。
⑤	ピック	・ピックアップの上下を行います。
⑥	ネット繰出し 注油	・ネットの繰出しを行います。 ・押している間、タイトチェンに注油します。 作業中はタイトチェンに自動注油します。
⑦	チャンバー	・チャンバーを開閉します。 ※閉じるとき、チャンバーロックを確実にするため、 チャンバーが閉じた後、もう一度「チャンバー閉じる」を 押してください。
⑧	グリップカッタ ストレッチアーム	・グリップカッタを閉じます。 ・ストレッチアームを初期位置に移動します。

No.	名称	用途
⑨	テーブル	・テーブルを持ち上げます。 ・「中間」はテーブルをラッピング姿勢にします。
⑩	自動放出	・ラッピング後に自動放出するか設定します。
⑪	放出	・ベールを放出します。
⑫	ラップ開始	・テーブルにベールが乗っている状態で押すとラッピングを開始します。
⑬	コンベア	・押している間、コンベアが動きます。
⑭	一時停止/解除	・一時的に停止したいときに押します。 ・エラーになった場合、液晶に一時停止の理由と「イチジテイシ」と表示されますので、トラクタを停止してエラー原因を取り除いてから、押して一時停止を解除してください。

◆本体側コントロールボックス



No.	名称	用途
①	チャンバー開閉	・チャンバーを開・閉します。
②	ローダー搬送	・コンベアが動きます。
③	ストレッチアーム回転	・ストレッチアームが高速・低速回転します。
④	グリップカッタ上下	・グリップカッタが上下します。
⑤	テーブル上下	・テーブルが上下します。

◆作業設定の変更方法

1．コントロールボックスを接続します。
2．コントロールボックス「累積クリア」を押しながら電源を入れます。
3．ブザーが鳴り続けたら、「累積クリア」を離してください。
4．コントロールボックスの「切換スイッチ」を「作業設定」にしてください。
5．以下のスイッチを使い必要な項目の設定値を変更してください。
なお、トラブルの原因になりますので、No.１以外の項目を変更する場合は販売店にご相談ください。
※作業ができないので、設定が終わったら必ずコントロールボックスの「切換スイッチ」を「通常作業」にしてください。
・「ピックアップ上げる」：設定値＋1　・「ピックアップ下げる」：設定値－1
・「ネット繰出し」：次の項目へ移る　・「注油」：前の項目へ戻る

No.	表示	初期値(設定範囲)	内容
1	ラップ 4ソウマキ:10カイ 6ソウマキ:15カイ	9(0, 8～30)	ラップフィルムの巻数を設定 ※0にするとラップせずに放出します
2	ルイセキコスウ	0	累積個数を表示します
3	フィルムギレ	1(1:アリ, 0:ナシ)	ラップフィルムが無くなったとき、自動で停止するか設定
4	テイシチエン	300msec（100～1000）	ラップ巻き終了時、ストレッチアーム初期位置センサが反応後にアームが停止するタイミングを遅らせる時間
5	フィルムハナシアゲ	200msec（100～1000）	ラップフィルムを抜く際、グリップカッタが上がる時間
6	フィルムハナシサゲ	500msec（100～1000）	ラップフィルムを抜く際、グリップカッタが下がる時間
7	グリップカッタ アゲチエン	500msec（100～1000）	フィルム巻き終了後、グリップカッタを上げるまでの時間
8	グリップカッタ サゲ	2sec（1～10）	ラップフィルムを挟む際、グリップカッタを下げる時間
9	テーブルアゲ	3sec（1～10）	ベール放出後、テーブルを上げる時間
10	テーブルサゲ	4sec（1～10）	ベール放出後、テーブルを下げる時間
11	テーブルマチ	1sec（0～10）	ベール放出時、テーブルが下がった位置で保持する時間
12	クリダシチエン	0sec（0～10）	ネット巻き時、ブレーキをかけずに繰出すネット量を増やす時間
13	チャンバーカイジカン	5000msec(1000～10000)	チャンバーを開く時間

No.	表示	初期値(設定範囲)	内容
14	ブレーキカイジョ マキスウ	0．5ソウ（0．1～2．0）	ネットブレーキを解除するまでに 何回巻くかを設定
15	ネットマキスウ	2．5ソウ（0．1～5．0）	ネットを何回巻くかを設定
16	ピックアップアゲ	14000msec（500～20000）	ピックアップを上げる時間
17	ピックアップサゲ	12000msec（500～20000）	ピックアップを下げる時間
18	カウントスイッチ	0(0:ユウコウ 1:バックアップモード)	カウントセンサが故障したときに設定を「1」にすることで、タイマーを使用してネット巻きを行います
19	フィルムハナシ カイスウ	1(1:3，4，5，6 2:2，3，4，5，6)	フィルムをラップ巻きの何回目で 離す動作を入れるか
20	チャンバーヘイセンサ	1(1:ヒダリ:ON　ミギ:ON 2:ヒダリ:ON　ミギ:OFF 3:ヒダリ:OFF ミギ:ON)	チャンバー閉センサを有効にする箇所を変更します(チャンバー閉センサが片方故障した際に使用)

◆センサチェックの方法

1．コントロールボックスを接続します。
2．コントロールボックス「累積クリア」を押しながら電源を入れます。
3．ブザーが鳴り続けたら、「累積クリア」を離してください。
4．コントロールボックスの「切換スイッチ」を「センサチェック」にしてください。
5．以下のスイッチを使い必要な項目の設定値を変更してください。
※作業ができないので、設定が終わったら必ずコントロールボックスの「切換スイッチ」を「通常作業」にしてください。
・「ネット繰出し」：次の項目へ移る　・「注油」：前の項目へ戻る

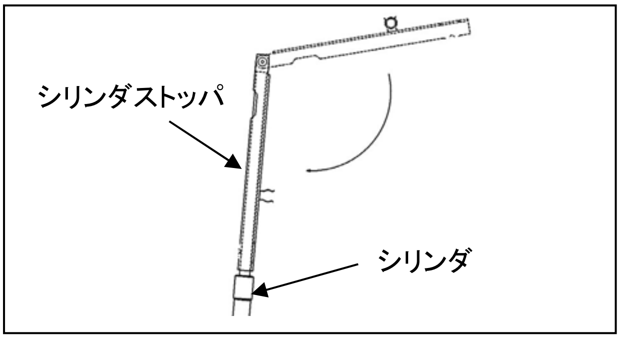
No.	名称	表示内容
1	マンリョウ チャンバーR チャンバーL	満了センサの状態を表示します。 チャンバー右閉センサの状態を表示します。 チャンバー左閉センサの状態を表示します。
2	カムウエ カムシタ PTO カウント	カム上センサの状態を表示します。 カム下センサの状態を表示します。 PTOセンサの状態を表示します。 カウントセンサの状態を表示します。
3	ストレッチ フィルム1 フィルム2 アームSW	ストレッチアーム初期位置センサの状態を表示します。 フィルム切れ右センサの状態を表示します。 フィルム切れ左センサの状態を表示します。 ストレッチアームの緊急停止センサの状態を表示します。
4	ロールアリ コンベア テーブル	ベール検出センサの状態を表示します。 コンベアセンサの状態を表示します。 テーブル中間センサの状態を表示します。

※表示が1:ON、0:OFF

２．シリンダストッパの取扱い

◆チャンバーを開けたままで ロックするときは

点検・整備等でチャンバーを開けたままで作業するときは、左右共必ずシリンダストッパをセットしてください。



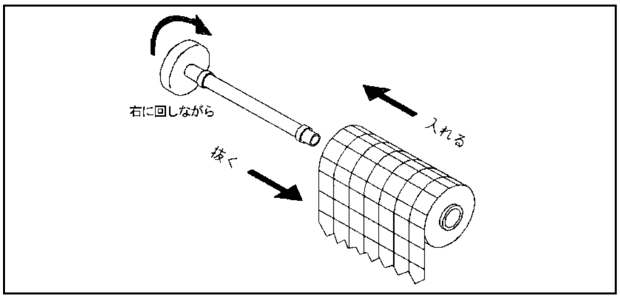
⚠ 注 意

左右共必ずシリンダストッパをセットしてください。
チャンバーを開けた状態での油圧装置の点検整備は、絶対に行わないでください。
これを怠ると重大な傷害事故につながるおそれがあります。

３．ネットの取付け

◆ネットを入れる

下図のようにネットを入れてください。
ネットの端はあらかじめ20cmほど
引き出しておきます。

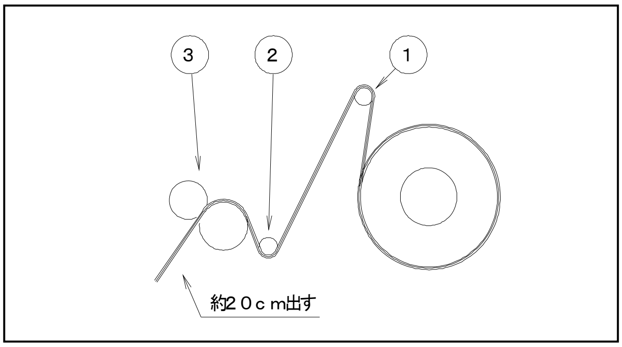


注 意

ネットをカウントローラにぶつけないようにしてください。カウントローラが破損するおそれがあります。

◆ネットを通す

①～③の順に束ねて通してください。
ネットは自動的に広がります。
通し終わったら、たるみを取りながら本体にセットしてください。



◆巻き数の目安

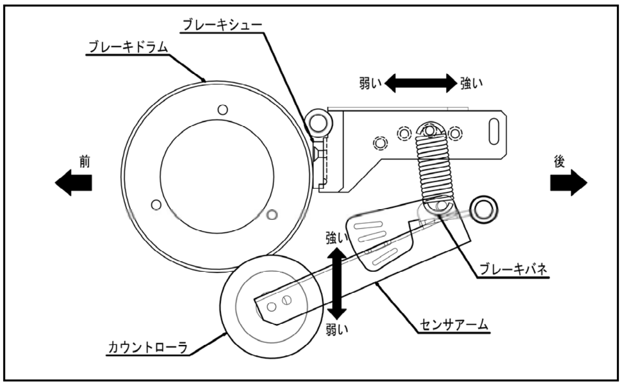
１巻きのネットで巻けるベール個数の目安は下表の通りです。

巻き数（回）	2	2．5	3	3．5
ベール個数	300	240	200	170

◆ブレーキ力を調整する

ブレーキが弱いとネットが広がらず、強いと切れやすくなります。
ブレーキ力は、ネットの後ろ側にあるブレーキバネで調整します。
ブレーキバネを下図のように
　切れやすい時は　前（弱い）へ、
　広がらない時は　後ろ（強い）へ、
掛けかえてください。

ネットロールを前に出すと簡単に調整できます。



注 意

ブレーキドラムが錆びていると、最初の数ロールはブレーキ力が弱くなります。また、ブレーキシューの減りが早くなります。

４．自動注油装置の取扱い

◆自動注油時

ベールをラップマシーンに搬送し、チャンバーが閉じてから、電動ポンプが作動してタイトチェンに注油されます。

◆作業中はオイル残量に注意

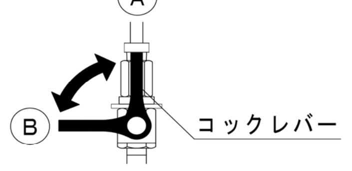
注油タンク内のオイル残量には特に注意して、少なくなれば補給してください。

注 意

注油タンクのオイル不足により注油されない状態で作業すると、機械の寿命を著しく低下させますので、無注油状態での使用は絶対に行わないでください。

◆電動ポンプのエア抜きを行う

①タンクにオイルが入っていることを確認してください。
②コックレバーをＡ方向にしてください。
③赤のホースをタンクより抜き、電動ポンプのコネクタを「エアヌキ」と書かれたコネクタに付け替え、オイルが出たら「チュウユ」と書かれたコネクタに戻してください。
④オイルが出ている事が確認できたら、ホースを元に戻し、コックレバーをＢ方向にしてください。

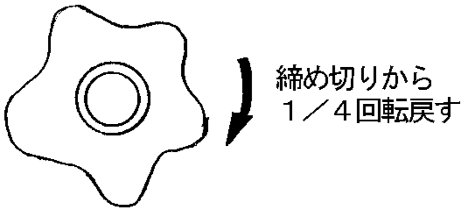


◆定期的にノズルの清掃を行って下さい

注油ノズルには草やワラが付着しやすく、そのまま使用されると、チェンへ注油されていないことがありますので、定期的にノズル先端部に付着した草やワラを清掃してください。

◆注油量の設定

注油量は、次の図を目安として調節してください。



⚠警 告

点検・清掃は必ずエンジンを停止してから行ってください。
これを怠ると傷害発生のおそれがあります。

５．油圧装置の取扱い

◆チャンバー開・閉の油圧装置です。

本機は、ポンプ･タンク一体型の油圧パッケージを装備しています。

◆ＰＴＯが回転している間は作動します

油圧パッケージは、PTOが回転している間、油圧力が発生し、PTOの回転が止まっていると油圧力は発生しません。

●油圧パッケージオイル交換

交　　換	：500時間毎または年1回
指定作動油	：昭和シェル テラスオイル＃68
オイル量	：約5ℓ(ゲージ管理) (タンクのみでは4ℓ)

●全量交換する場合は、ISO VG68耐摩耗性作動油相当品でもかまいません。

注 意

油圧パッケージオイルの点検は３本のシリンダ(チャンバー、テーブル)がすべて最縮時に点検してください。
最伸時にタンクを満タンにすると、シリンダを縮めた時にオイルがオーバーフローすることがあります。

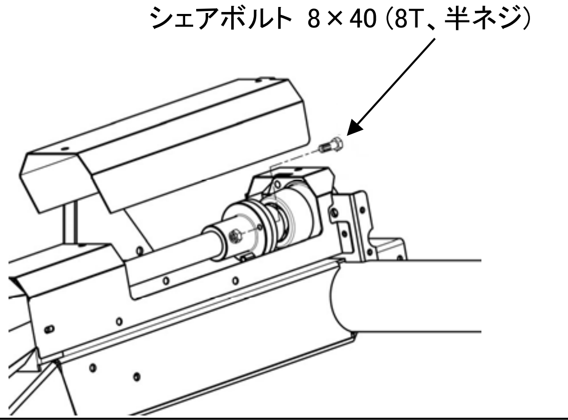
６．安全装置の取扱い

◆**メインシェアボルト**

前部中央のミッション前方のカバー内にあります。切損した場合は、必ずエンジンを停止し、付属の逆転ハンドルで穴を合せてボルトを入れます。
使用するボルトはM8×40(8T､半ネジ)１本です。それ以外のボルトを使用すると、故障の原因になりますので絶対に使用しないでください。
また、シェアボルトの向きを逆に入れると切損しやすくなりますので、必ず下図のように入れてください。

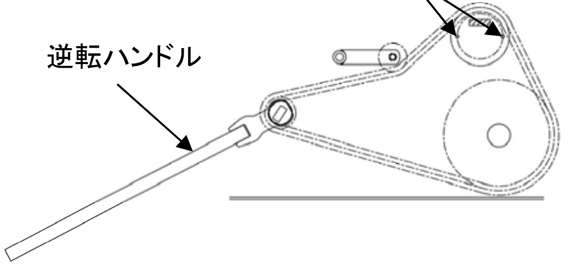
◆**シェアボルトがよく切損する場合**

ピック部での詰まり、もしくは梱包圧の上げすぎが原因です。
適正なウインドローを作り梱包圧を下げてください。



◆**ロールベーラ部のシェアボルト**

左側面カバー内にあります。切損した場合、必ずエンジンを停止し、付属の逆転ハンドルで穴を合わせてボルトを入れてください。
使用するボルトは、M8×30－8T 全ネジ(2本)です。それ以外のボルトを使用すると故障の原因となりますので絶対にやめてください。

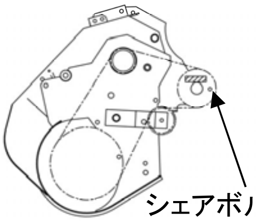


⚠警 告

シェアボルト交換後は逆転ハンドルを必ず外してください。
これを怠ると傷害発生のおそれがあります。

◆**ピックアップ部のシェアボルト**

ピックアップ左のカバー内にあります。
切損した場合、必ずエンジンを停止しピックアップ部の草を取り除き、タインを手で回して穴を合わせます。
使用するボルトはM8×30－8T全ネジです。それ以外のボルトを使用すると故障の原因になりますので絶対にやめてください。



◆シェアボルトがよく切損する場合

作業速度を遅くしてください。
凸凹の多いほ場では、ロワーリンクを上げてタインが地面と接触しないようにしてください。

7．ピックアップ装置の取扱い

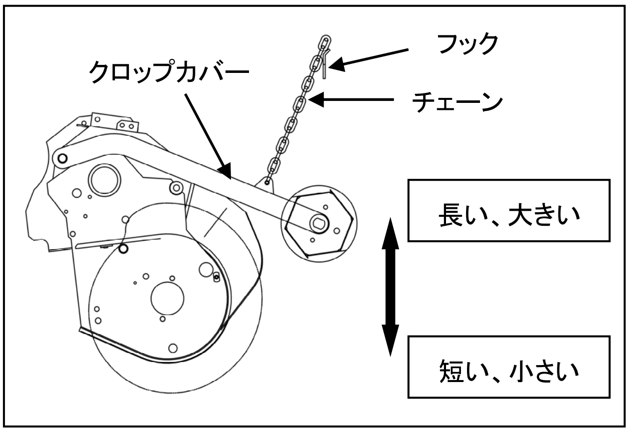
電動昇降装置を装備しています。
コントロールボックスのピック昇降スイッチ（P30参照）を操作して、ピックの上下を行ってください。

注意

移動時は必ず最上げ状態にしてください。
これを怠ると機械を破損させる原因になります。

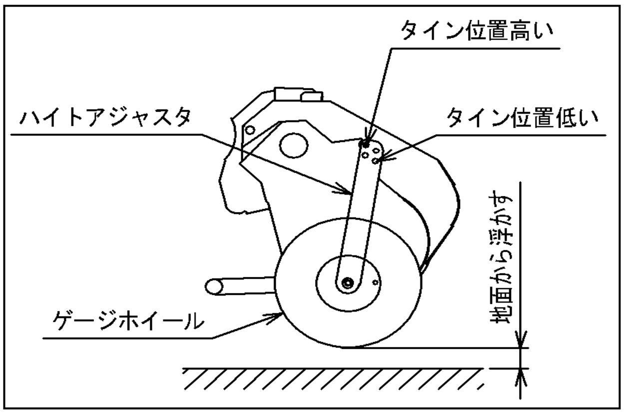
◆クロップカバーの使い方

チェーンをフックから外して高さを調整します。
ウインドローの大小、草の長短で位置を決めてください。

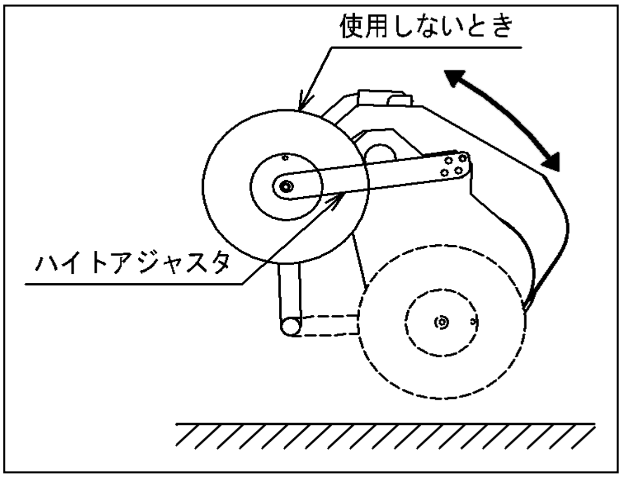


◆ゲージホイールの使い方

ハイトアジャスタを左右とも、希望する高さに固定してください。
ゲージホイールは地面から少し浮かせた状態で使用してください。



ゲージホイールを使用しない時は、次のようにハイトアジャスタを組替えてください。



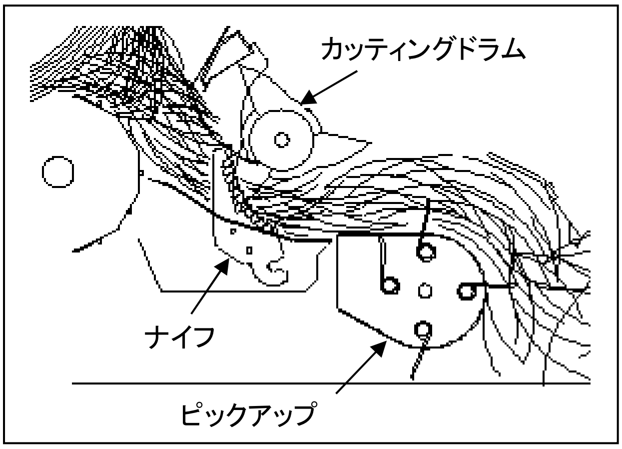
注意

ゲージホイールで草を踏むと、カッティングドラムやピックアップで詰まりやすくなります。

８．切断装置の取扱い

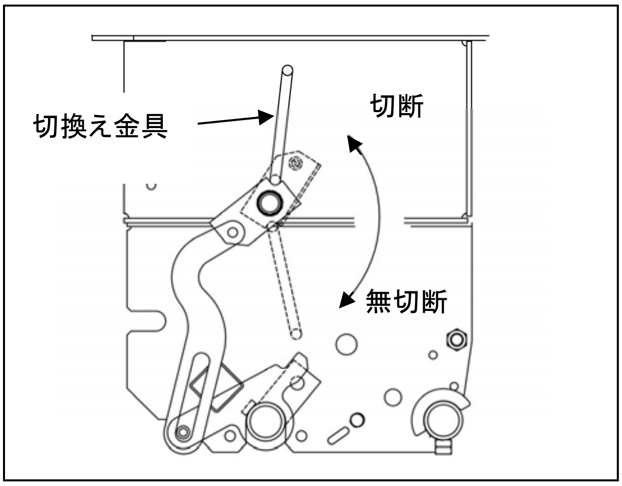
◆切断装置について

図のように草はピックアップより拾い上げられた後、カッティングドラムとナイフの間で切断（理論切断長90mm）されると同時に成形室に送られベールが形成されます。



◆切断／無切断の切換え

機体右下に切換え金具があり、レバーの上下でナイフの出し入れができます。

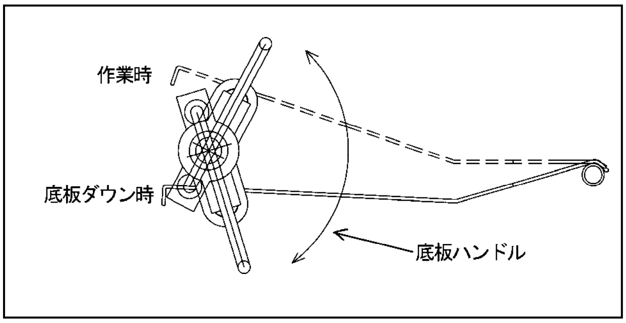


９．底板ダウン装置の取扱い

◆詰まったときは

①切断で使用時は無切断に切換えてください。（前項８．参照）
②底板ハンドルを下げてください。
③エンジン回転をある程度保ったまま ゆっくりとPTOをつないでください。

詰まりが取れた後は、底板ハンドルを上げ、切断・無切断の切換えは作業に合わせて決定してください。

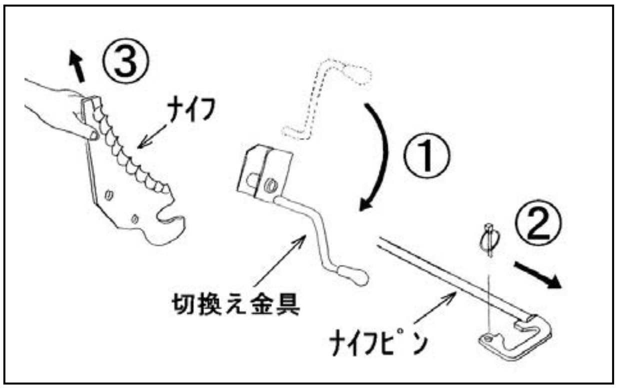


注 意

底板ダウン状態のまま作業すると、「つまり」「シェアボルト切損」の原因になります。

１０．ナイフの交換

チャンバーを開け、シリンダストッパをセットします。エンジンは必ず停止させてください。
①切換え金具を無切断にしてください。
②ナイフピンを抜いてください。
③ナイフを抜いてください。



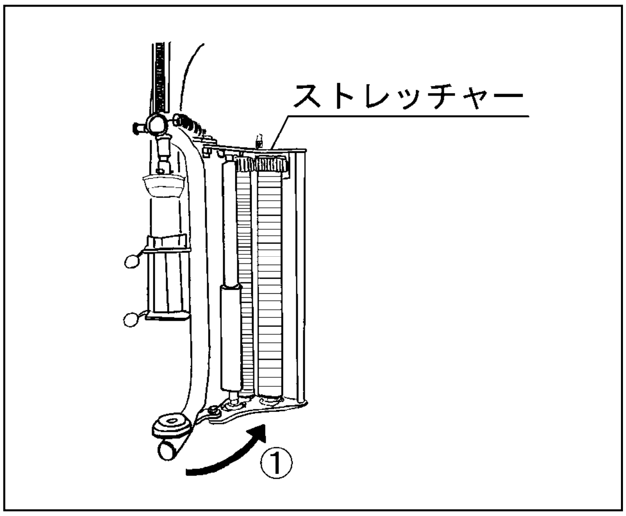
⚠注 意

ナイフの取り扱いには十分注意してください。
これを怠ると傷害事故につながるおそれがあります。

１１．フィルムの装着のしかた

使用できるフィルムは500mm幅です。
また、フィルムの伸び率は約150％です。

①ストレッチャーが固定される位置まで
左回転させて開けてください。



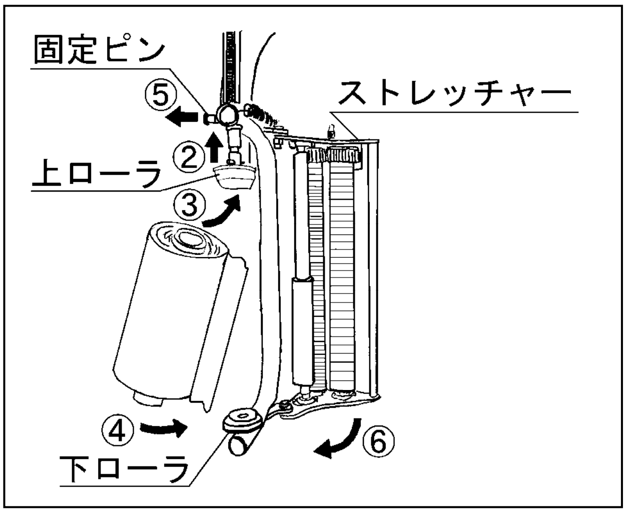
②上ローラを押し上げて固定します。
（押し上げると自動で固定されます）

③フィルムの切れ端を図の方向にし、
フィルムの上側の中芯を上ローラに押し当てます。

④フィルムの下側の中芯を下ローラの上に乗せます。

⑤固定ピンを引張り、上ローラを中芯にセットし、フィルムを固定します。

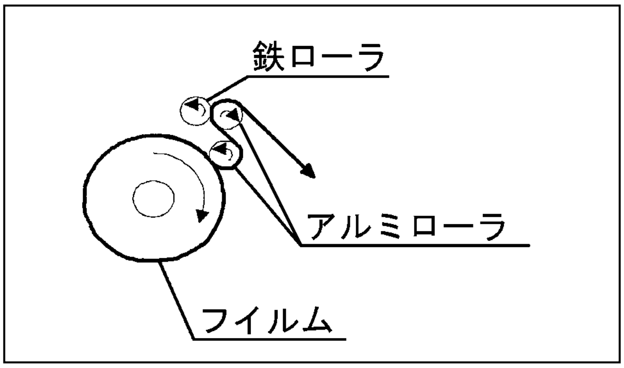
⑥ストレッチャーをフィルム側に回転させ、
ストレッチャーをフィルムに接触させます。



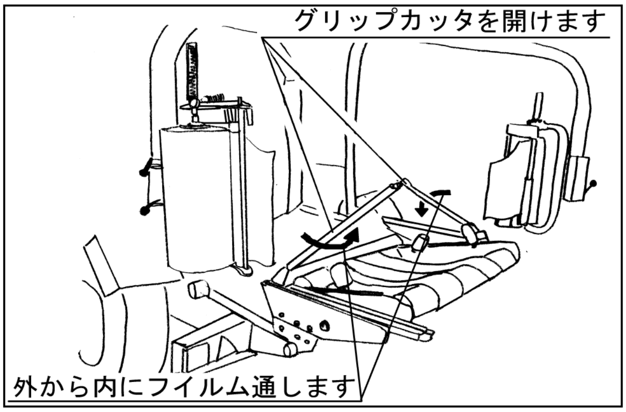
⚠ 注 意

固定ピンを引っ張る時には、フィルムの中芯周辺に手を置かないでください。
中芯と上ローラの間に指を挟むおそれがあります。

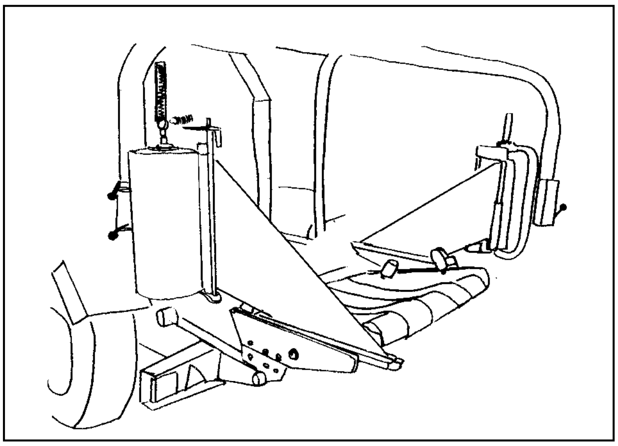
⑦下図のようにアルミローラの間に
フィルムを通してください。



⑧P31のグリップカッタ上下を操作して、
グリップカッタを開け、フィルムをグリップカッタに挟んでください。

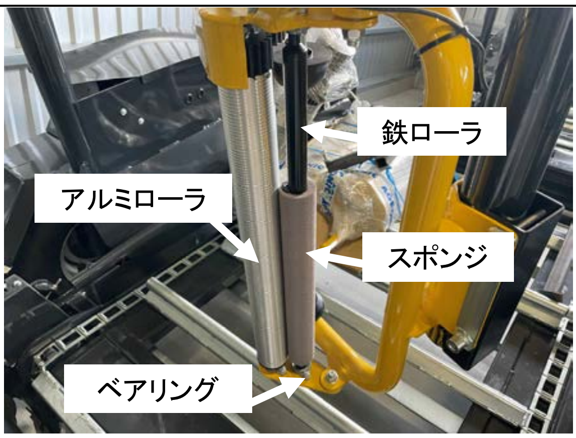


⑨フィルムを挟んでグリップカッタを閉じてください。



◆フィルム切断が上手くいかないとき

下図に示すスポンジとアルミローラとの間に隙間が空いている可能性があります。上記症状で隙間がある場合はベアリング取り付け穴部で鉄ローラの位置をアルミローラとスポンジとの隙間が0～0．5mmになるように調整してください。

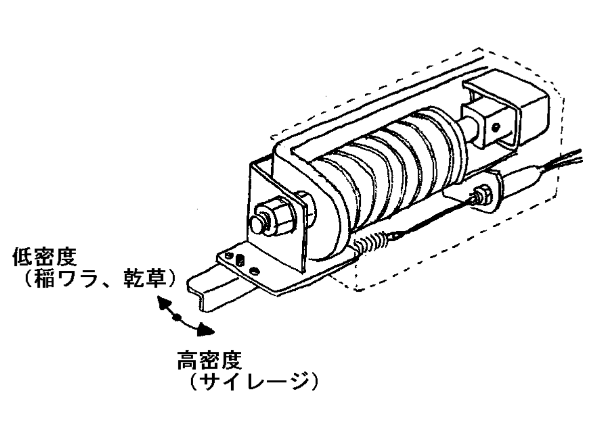


１２．梱包密度の設定

本体右側のチャンバーロック金具部にあります。

梱包圧力を感知する装置で、圧力感知と同時にコントロールボックスのブザーを鳴らし、ネットの自動繰り出しに連動します。

次の図を参考にして作物ごとに調整金具の位置に変えてください。



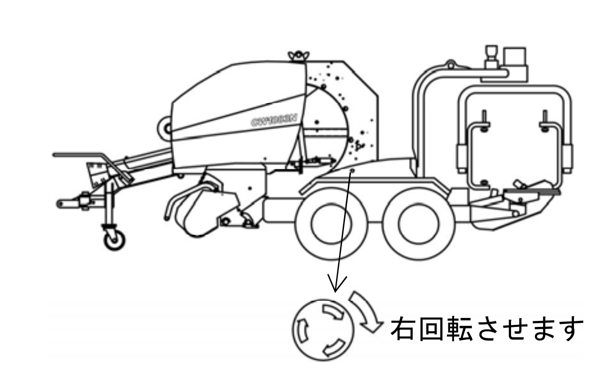
１３．緊急停止スイッチ

本体左側に付いています。

このボタンを押すと、作業が中断され、コントロールボックスに「ツウシンエラー」と表示されます。

復帰する場合には、ボタンを右回転させてください。

ボタンが手前に出ます。



作業方法

１．作業前準備の流れ

●ネット・フィルムを取り付けてください。
●各部の給油・グリスアップを行ってください。
●注油タンクにオイルを補充してください。
※各エラー原因についての詳細はＰ５４を参照してください。

梱包密度を設定してください。 P40参照

ピックアップの高さを設定してください。 P37参照

プレスバーの高さを設定してください。 P37参照

周囲の安全を確認してから、
トラクタのエンジンをかけてください。

PTOを入れてください。PTO回転数を
450～540rpmにしてください。

※PTOをつなぐ時は必ず
エンジン回転を低速にして
から行ってください。
高速回転での接続は機械
の寿命を著しく縮めます。

コントロールボックスの電源を
入れてください。

＜自動＞
トラクタのバッテリ
チェックを行います。

エラー表示
作業に必要な電流が確保できません。
バッテリを点検してください。（P28参照）

＜自動＞
カムの初期位置を
確認します。

＜自動＞
PTOの回転数を
チェックします。

エラー表示
PTO回転数を450～540rpmにしてください。

＜自動＞
チャンバー、
ストレッチアーム位置
をチェックします。

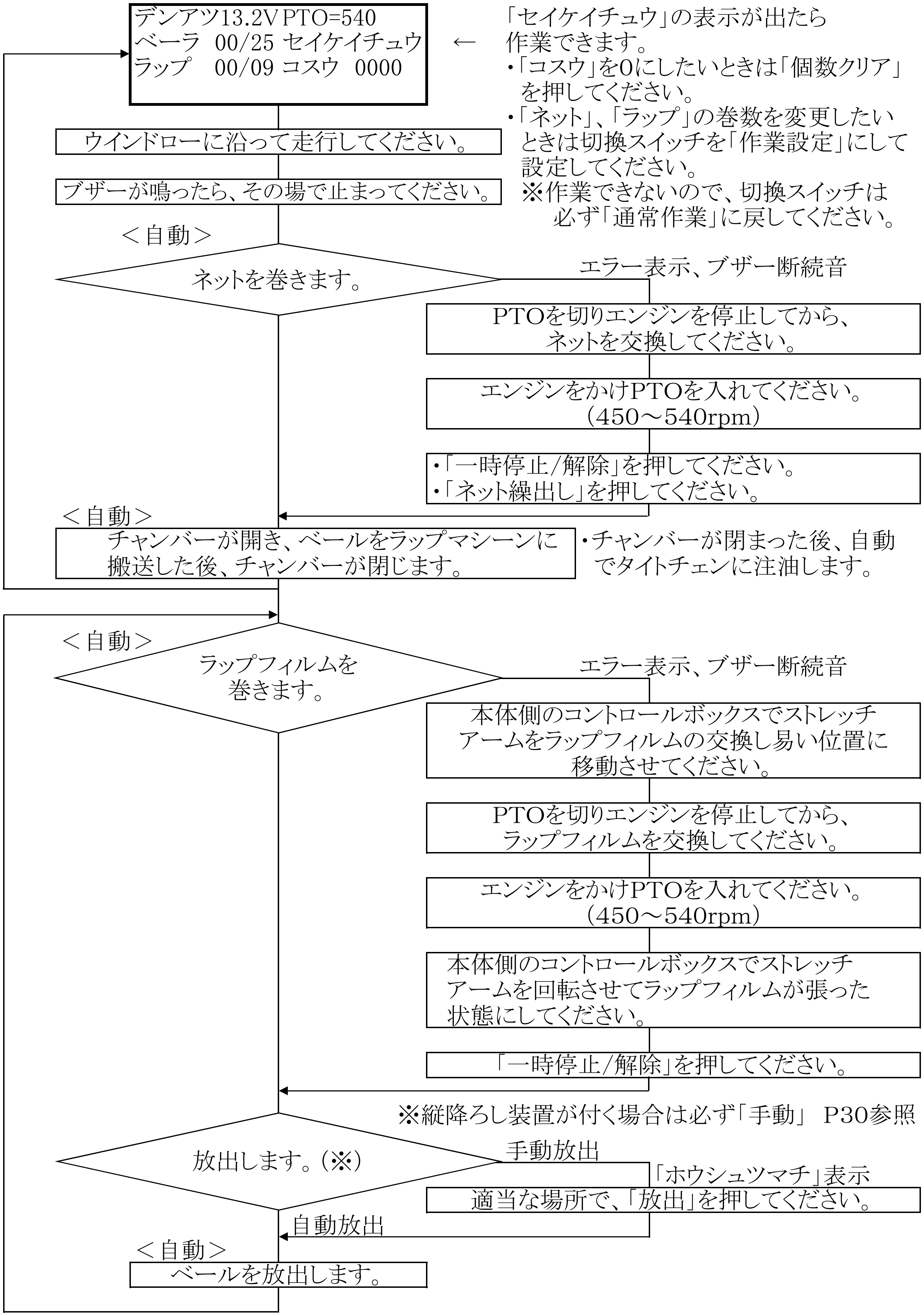
エラー表示
表示に従ってロールベーラ本体横のコントロール
ボックスで各部が当たらないことを確認してから、
初期位置に合わせてください。

本体側コントロールボックス
・「グリップカッタ閉じる」を押してください。
・「テーブル上げる」を押してください。

「注油」を押すと、油がタイトチェンに
注油されるか確認してください。

作業方法

2. 作業の流れ



デンアツ13.2V PTO=540
ベーラ 00/25 セイケイチュウ
ラップ 00/09 コスウ 0000
←
「セイケイチュウ」の表示が出たら作業できます。
・「コスウ」を0にしたいときは「個数クリア」を押してください。
・「ネット」、「ラップ」の巻数を変更したいときは切換スイッチを「作業設定」にして設定してください。
※作業できないので、切換スイッチは必ず「通常作業」に戻してください。
ウインドローに沿って走行してください。
ブザーが鳴ったら、その場で止まってください。
＜自動＞
ネットを巻きます。
エラー表示、ブザー断続音
PTOを切りエンジンを停止してから、ネットを交換してください。
エンジンをかけPTOを入れてください。（450～540rpm）
・「一時停止/解除」を押してください。
・「ネット繰出し」を押してください。
＜自動＞
チャンバーが開き、ベールをラップマシーンに搬送した後、チャンバーが閉じます。
・チャンバーが閉まった後、自動でタイトチェンに注油します。
＜自動＞
ラップフィルムを巻きます。
エラー表示、ブザー断続音
本体側のコントロールボックスでストレッチアームをラップフィルムの交換し易い位置に移動させてください。
PTOを切りエンジンを停止してから、ラップフィルムを交換してください。
エンジンをかけPTOを入れてください。（450～540rpm）
本体側のコントロールボックスでストレッチアームを回転させてラップフィルムが張った状態にしてください。
「一時停止/解除」を押してください。
※縦降ろし装置が付く場合は必ず「手動」 P30参照
放出します。（※）
手動放出
「ホウシュツマチ」表示
適当な場所で、「放出」を押してください。
自動放出
＜自動＞
ベールを放出します。

3. 作業再開の流れ

ベールがリヤチャンバーに引っかかり落ちない場合

PTOを切り、エンジンを停止します。

↓

ベールを引っ張り落とします。

↓

エンジンをかけPTOを入れてください。（450～540rpm）

↓

「一時停止／解除」を押してください。

※チャンバー内に入るときは必ずシリンダストッパをかけ、PTOを止めてトラクタのエンジンを停止してください。
※梱包圧を低くするとベールの落ちが良くなります。（P40参照）

作業途中で本体側の緊急停止スイッチを押した場合

油圧を操作するとき、「本体側コントロールボックス」を利用してください。

↓

「緊急停止スイッチ」を復帰させてください。 P40参照

↓

「コントロールボックス」の電源を入れ直してください。

↓

「1．作業中準備の流れ」を参考に初期位置を合わしてください。

作業途中でコントロールボックスの非常停止スイッチを押した場合

「コントロールボックス」の電源を入れてください。

↓

油圧を操作するとき、「本体側コントロールボックス」を利用してください。

↓

「1．作業中準備の流れ」を参考に初期位置を合わせてください。

4. 作業後の流れ

手順	備考
満了感知しない場合、「ネット繰出し」を押してください。	※圧力ゲージが上がっていないとネットを巻くことができませんので、材料を足してください。
↓	
ベールが放出され、テーブルが最上げ位置に上がるまで待ちます。	
↓	
ピックアップを最上げ位置にします。	P37参照
↓	
PTOを切り、エンジンを停止します。	
↓	
コントロールボックスの電源を切ってください。	
↓	
鼠が巣を作る原因になりますので、各部に溜まっている材料を掃除してください。	※チャンバー内に入るときは必ずシリンダストッパをかけ、PTOを止めてトラクタのエンジンを停止してください。（P34参照）

5．拾い上げ方法

◆ウインドローを作ってください

拾い上げ梱包には、必ずウインドローを作ってください。

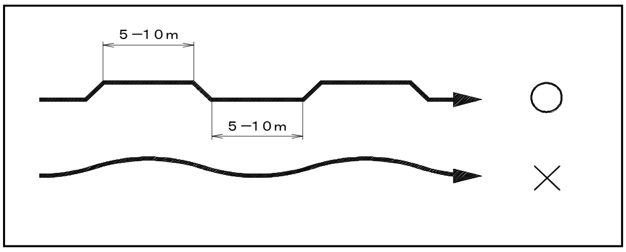
注 意

ウインドローが大きすぎると、詰まりの原因となり能率的な梱包作業ができません。

◆梱包作業

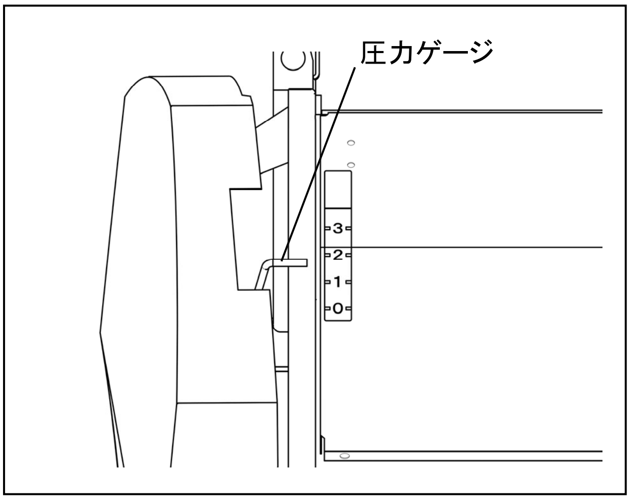
能率よく、形のよいベールを作るためには、草がベーラの幅いっぱいまで均一に入るように走行しなければなりません。

ウインドローの幅が狭い場合は、下図の上のように走行して、左右交互にピックアップで拾うようにしてください。
下のように蛇行運転すると、形のよいベールになりません。



◆ゲージ確認

右側にゲージが装備されています。
ゲージ針が動き始めたら、走行速度を落としてください。



6．作業速度について

3km／時〜7km／時が適正速度です。
切断作業をする場合は、これより速度を落としてください。

7．コーナーでの走り方

コーナーではウインドローが大きくなりやすいので、作業速度を落としてください。

⚠注 意

後方に人や動物のいないことを確認してください。
また、傾斜地では放出した梱包ベールが転動しないよう、平坦な場所に放出してください。

◆放出確認してチャンバーを閉じる

チャンバーから放出できたことを確認してから、チャンバーを閉じ再び作業をスタートしてください。

8．傾斜地での作業

◆必ず直角走行・急ハンドル禁止

等高線に対して直角方向に走行し、旋回は速度を落として、急ハンドルを切らないで旋回してください。

⚠警 告

等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。
始業点検は、始業時に欠かさず行ってください。

⚠警 告

●取り外したカバー類は必ず取り付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
●点検・整備をするときはPTOを切り、エンジンを停止して、回転が止まってから行ってください。

点検一覧表

No.	項　　目	内　　容	チェック
1	コントロールボックス電源	液晶表示確認	
2	ネットブレーキドラム	錆チェック	
3	ネット繰り出しローラ	泥、汚れチェック	
4	繰り出しベルトテンショナー	動作チェック	
5	タイトバーのゆるみ	増締	
6	タイトチェン	伸びチェック	
7	駆動チェンの張り調整	テンションボルト調整等	
8	ピックアップドラムのタイン折れ・曲がり	補充又は修理	
9	ピックアップドラムの草等の巻き付き	草・ネットの巻き付きを除去	
10	自動注油タンク	オイル補充、ノズル掃除	
11	予備シェアボルト	不足の時は補充	
12	タイヤ	空気圧不足のときは空気補充	
13	ネット・フィルム切断ナイフ	切れ味チェック	
14	ラップ部テーブルベルト	破れ等確認	
15	その他各部注油・グリス	各部への給油参照	
16	油圧パッケージ給油	油圧オイル補充	

点　検　メ　モ

簡単な手入れと処置

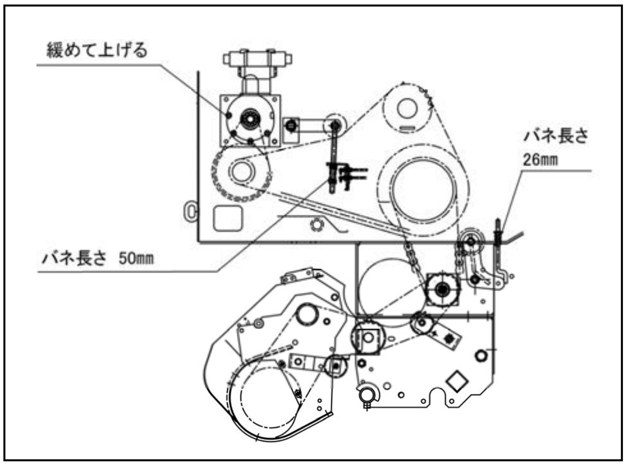
1．チェンの張り調整

◆タイトチェン部

「運転に必要な装置の取扱い」にそって張り調整を行ってください。

◆駆動チェン部

図の要領で張り調整を行ってください。



注 意

チェンは特に初期伸びをします。
初めての使用から１時間後に張り調整を行ってください。

⚠警 告

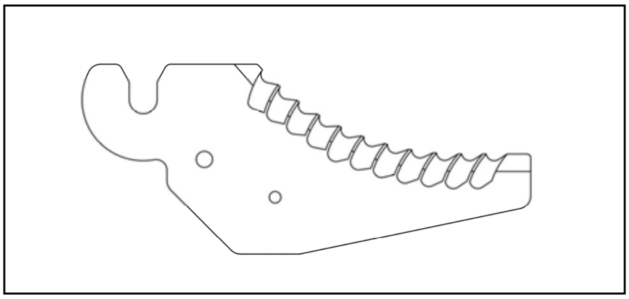
- ●チェンの張り調整や、各部の調整をするときは、PTOを切りエンジンを停止して、回転部が止まってから行ってください。
- ●各チェン、各回転部分や摩擦しゅう動部分が摩耗したまま使い続けると、摩擦による加熱の原因となり、場合によっては火災となります。

2．切断ナイフの手入れ

◆定期的に研磨する

ナイフは研磨しないと切れ味が悪くなり、馬力がより必要となる原因にもなります。

毎作業前に刃面を研磨してください。



⚠注 意

ナイフの取り扱いには十分注意してください。
これを怠ると傷害事故につながるおそれがあります。

注 意

一気に研磨すると焼なましされてナイフの減りが早くなります。
少し研磨して冷やす、を繰り返してください。

3．タイヤの点検

◆装着のタイヤと空気圧

本機に装着のタイヤは、チューブレスタイヤを装備しています。
空気圧は下記の通りです。定期的に空気圧を点検してください。

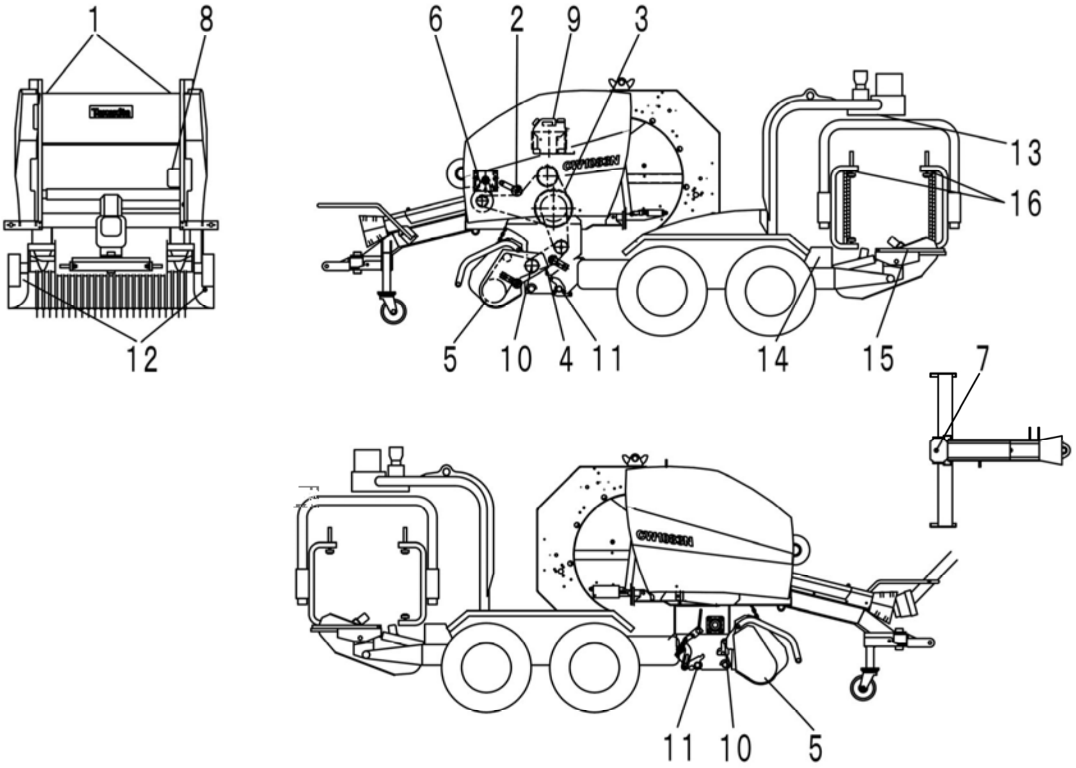
●10．0／80－12 10PR
常圧タイヤ内圧
390KPa（3．9kgf／cm^2）以下

⚠警 告

- ●タイヤに関係する作業を行う場合は本機を安全な場所に停車し、必ず歯止めをしてから行ってください。
- ●タイヤおよびホイールに関する修理は十分な設備をもつタイヤショップ等の専門店に依頼してください。

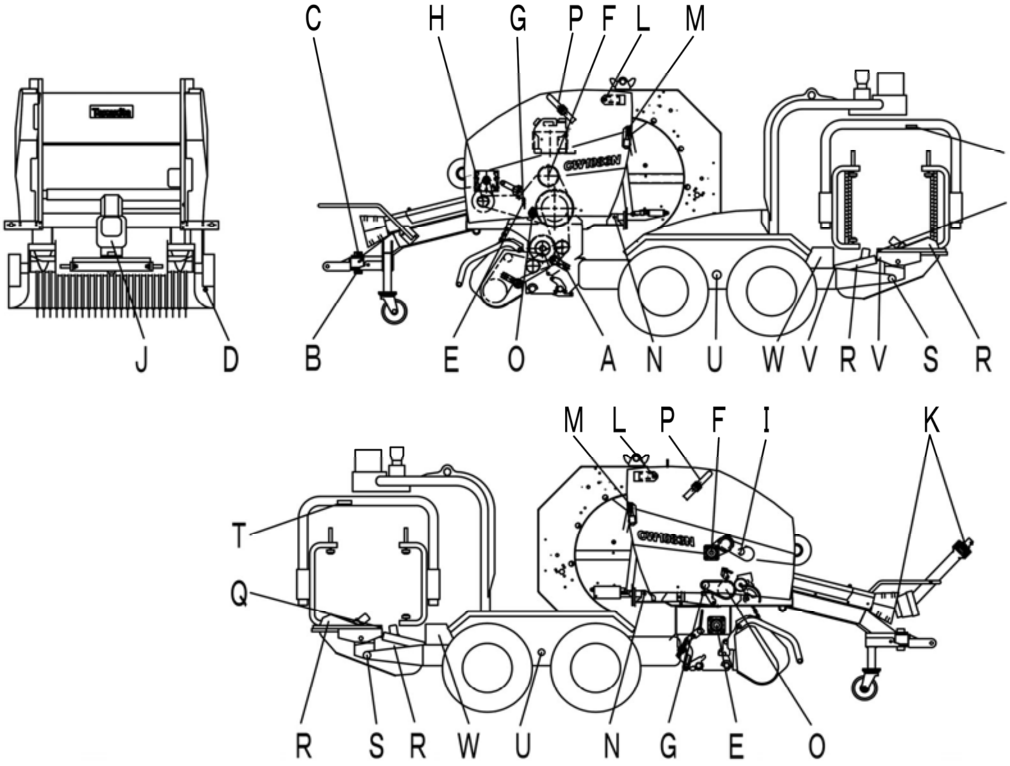
４．各部の注油・グリスアップ

１．図表に従って各部に注油を行ってください。



番号	場所	注油時間
1	タイトチェン（左右）	作業前
2	＃80チェン	作業前
3	＃80チェン	作業前
4	＃50ピック中間チェン	20時間毎
5	＃50ピックチェン（左右）	20時間毎
6	油圧パッケージチェン	20時間毎
7	ミッションケース／ギヤオイル＃90　0．5ℓ	100時間毎に入れ替え
8	油圧パッケージ／油圧作動油＃68　4ℓ	作業前に確認
9	注油タンク（右カバー内側）	作業前に確認
10	ピック支点（左右）	20時間毎
11	ナイフ切換支点（左右）	20時間毎
12	ピックタインバー（左右）	20時間毎
13	ラッピングアーム駆動チェン	作業前
14	コンベア送り駆動チェン	作業前
15	グリップカッタ可動部	作業前
16	ストレッチアルミローラギヤ部	作業前

2．図表に従って各部にグリスアップを行ってください。



番号	場所	注油時間
A	ドラムギヤ	作業前
B	Vヒッチ支点（上下）	作業前
C	Vヒッチ回転部	作業前
D	ピックアップカム部	作業前
E	カッティングドラム軸ベアリング（左右）	20時間毎
F	タイトチェン軸ベアリング	20時間毎
G	フロントローラ軸ベアリング	20時間毎
H	駆動軸ベアリング	20時間毎
I	ゴムローラ	20時間毎
J	入力軸	20時間毎
K	ジョイント両端（2ヶ所）	20時間毎
L	チャンバー支点両端（2ヶ所）	20時間毎
M	シリンダ上（左右）	20時間毎
N	チャンバーロック支点	20時間毎
O	搬送ローラ軸（左右）	20時間毎
P	タイトチェンテンションスライダー（左右）	20時間毎
Q	グリップカッタ（左右）	20時間毎
R	テーブルローラ軸ベアリング（4ヶ所）	20時間毎
S	ラップテーブル回転支点軸（左右）	20時間毎

簡単な手入れと処置

番号	場所	注油時間
T	ストップアーム支点（2ヶ所）	20時間毎
U	タンデム車輪支点（4ヶ所）	20時間毎
V	テーブルダンプシリンダ支点	20時間毎
W	コンベア軸ベアリング	20時間毎

５．長期格納時の手入れ

●付着した泥やほこり等を落とし、巻き付いた草等を取り除いてください。
●各回転・摺動部やチェン類には十分注油し、錆びないようにしてください。
●塗装のはがれた部分には、補修塗料を塗って、錆が出ないようにしてください。
●各部のボルト・ナットがゆるんでいないかを確認し、ゆるんでいるときは締めてください。
格納する場所は、雨やほこりのかからない屋内に保管してください。
●格納は平坦な所で保管してください。

６．センサ類の調整

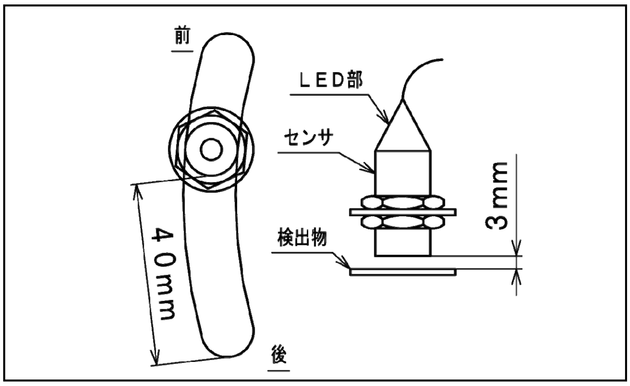
⚠警 告

トラクタのエンジンをかけたまま調整しますと、重大な事故が起こる可能性がありますので、必ずPTOを止め、エンジンを停止した状態で行ってください。

※各センサの位置はP22を参照してください。

◆ＰＴＯ、ストレッチアーム初期位置センサの調整方法

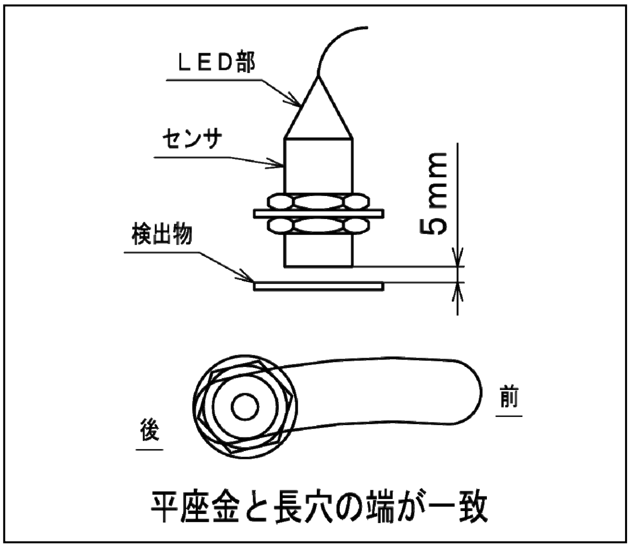
①図に示すように、センサを検出物から3mmの位置に調整してください。
②コントロールボックスの電源を入れて、センサが検出物に反応することをLED部の点灯で確認してください。



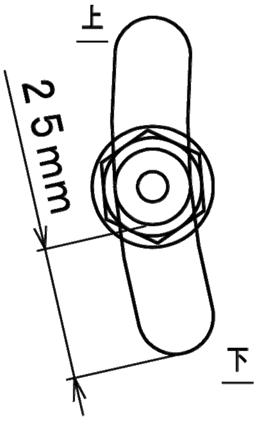
ストレッチアーム初期位置センサの標準取り付け位置は長穴の後から40mmの位置です。

◆コンベア、テーブル中間、フィルム切れ１、フィルム切れ２センサの調整方法

①図に示すように、センサを検出物から5mmの位置に調整してください。
②コントロールボックスの電源を入れて、センサが検出物に反応することをLED部の点灯で確認してください。



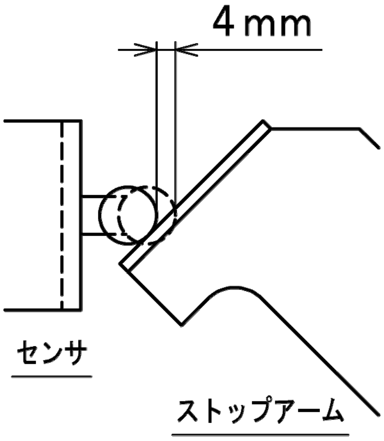
コンベアセンサの標準取り付け位置は平座金と長穴の端が一致する位置です。



テーブル中間センサの標準取り付け位置は長穴の下から25mmの位置です。

◆ストレッチアームストップ１、ストレッチアームストップ２センサの調整方法

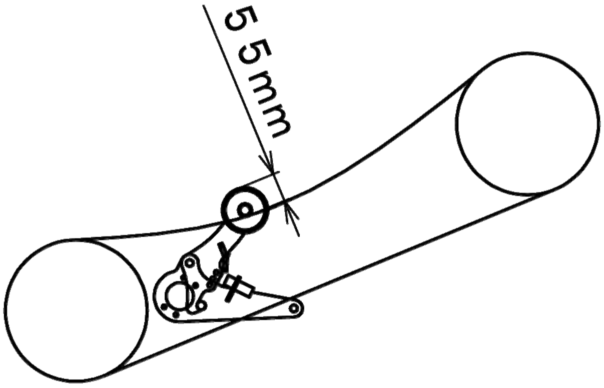
①図に示すようにセンサがストップアームに4mm押された位置に調整してください。



◆ベール検出センサのローラ部の調整方法

①図に示すように、上からベルトを押さえて、ベルトのたるみを取ってください。

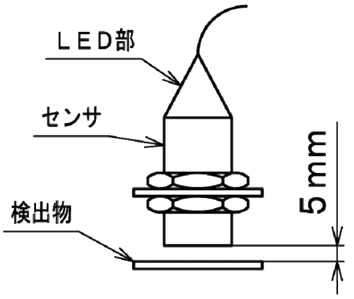
②センサのローラ部がベルトから55mm出る位置で調整してください。



◆ベール検出センサの調整方法

①センサを検出物から5mmの位置に調整してください。

②コントロールボックスの電源を入れて、センサが検出物に反応することをLED部の点灯で確認してください。



◆満了感知センサの調整方法

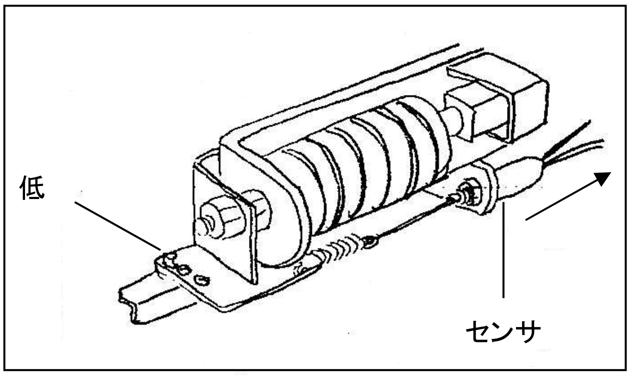
①梱包密度の位置を「低」にしてください。

②コントロールボックスの電源を入れて、センサチェックが行える状態にしてください。(P33参照)

コントロールボックスの液晶に「1」と表示が出る位置まで図の矢印方向にセンサをずらしてください。

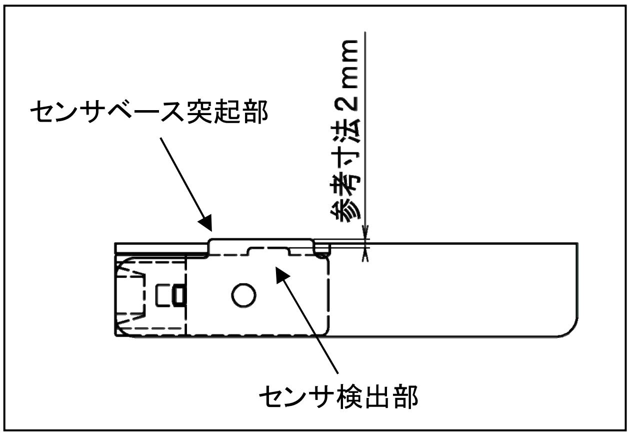
③その位置から矢印とは逆方向にナットを２回転(3mm)戻して固定してください。

※確認後は必ず「切換スイッチ」を「通常作業」にしてください。



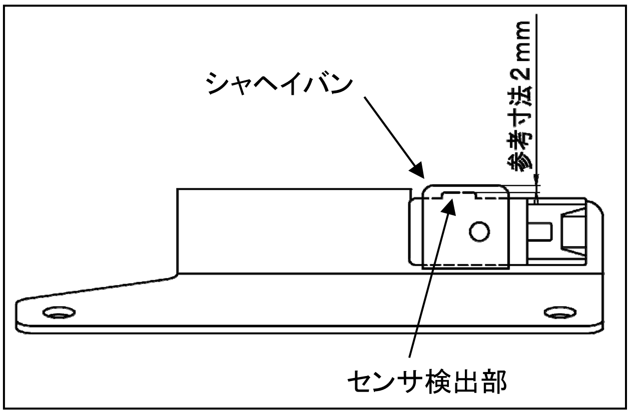
◆チャンバー閉左センサ

センサの検出部とセンサベースの突起部を平行にしてください。



◆チャンバー閉右センサ

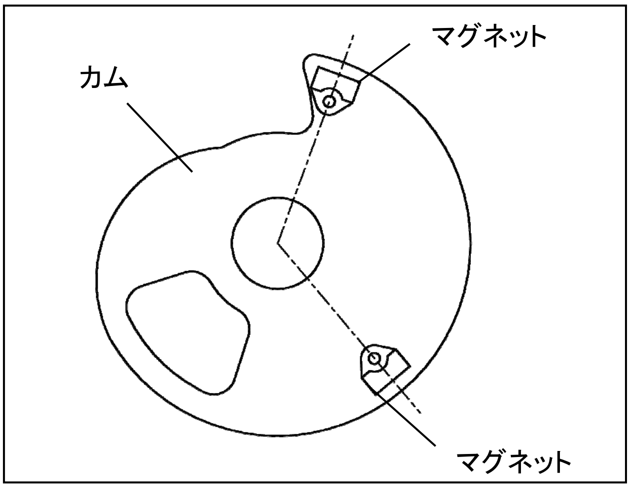
センサの検出部とシャヘイバンを平行にしてください。



7．マグネットの配置

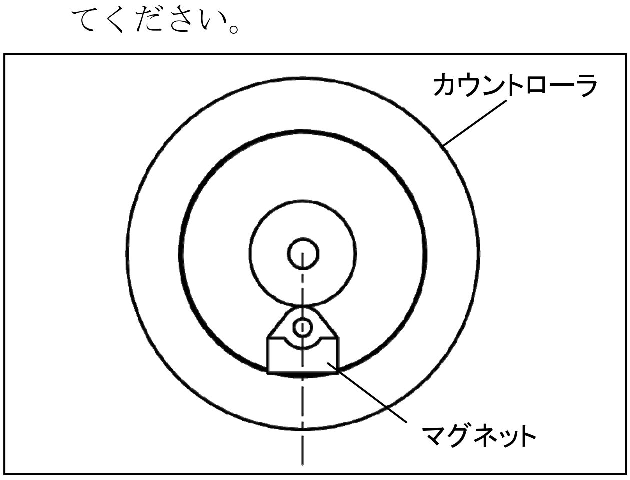
◆カム

図に示すように、カムの中心から延びる線に沿ってマグネットを配置してください。



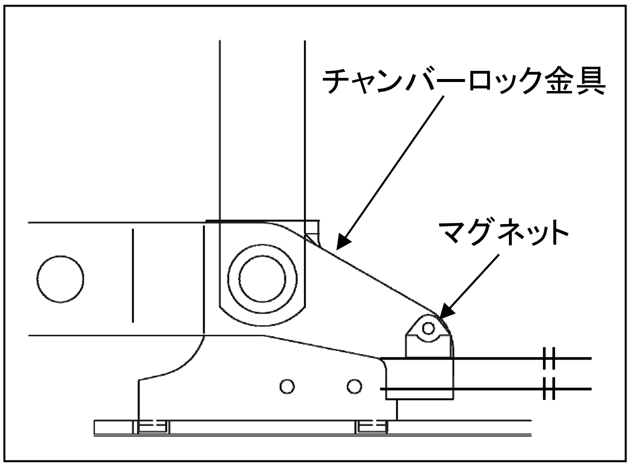
◆カウントローラ

図に示すように、カウントローラの中心から延びる線に沿ってマグネットを配置してください。



◆**チャンバーロック金具**

図に示すようにチャンバーロック金具の曲げ部分と平行になるようにマグネットを配置してください。



不 調 診 断

箇所	不調内容	診断	処置	参照ページ
ベール	左右の径が違う	片側にしか草が入っていない	左右均等に入るように走る	45
	固くならない	梱包密度が低い	密度を一段上げて作業する	40
		走行速度が速い	圧力ゲージが上がり始めたら速度を1段遅くする	—
	馬力が必要	草が馬力の必要な水分量になっている	密度を一段下げて作業する	40
		注油不足	タイトチェン、駆動チェンに注油する	48
		注油不足	注油タンク、配管に空気が入っていないか確認する	35
	草が入り口で詰まる	作業速度が速い	速度を1段遅くする	—
		クロップカバーの位置が低い	クロップカバーを上げる	37
		ナイフが切れない	ナイフを研磨する	47
		ゲージホイールで草を踏んでいる	ゲージホイールを地面から浮かすまたは効かなくする	37
放出	フロントケースから出てこない	梱包密度が高すぎる	密度を一段下げて作業する	40
		前傾姿勢で作業している	作業機が水平になるようにロワーリンクを調整する	—
ピック	ピックアップが昇降しない	ギヤのかみ合い部にほこりが噛んでいる	ほこりを除去する	—
		支点部の回転が固くなっている	ピック昇降ギヤの支点部に注油する	48
	昇降速度が遅い	支点部の回転が固くなっている	ピック昇降ギヤの支点部に注油する	48
	短い草を拾わない	タインで前に吐き出している	クロップカバーを下げる	37
	シェアボルトがよく切れる	タインで地面を掻いている	ロワーリンクを上げる	—
ネット装置	ネット巻きがスタートしない	ベルトテンションが動作していない	テンション金具が軽く動くかを確認する	—
	繰り出しローラに巻き付く	ゴムローラが濡れている	水分を拭き取る	—
		土や泥が付着している	土や泥を取る	—
	巻き始めにネットが切れる	ブレーキが強すぎる	・ブレーキバネを前側に掛けてブレーキを弱くする ・付属の弱いブレーキバネに交換する	34
		PTO回転が速すぎる	540回転以下にする	—
		ブレーキドラムが錆びている	ブレーキドラムの錆を取る	35

不 調 診 断

箇所	不調内容	診断	処置	参照ページ
ネット装置	ネット巻きが緩い	通し方が間違っている	通し方を確認する	34
		ブレーキが弱い	ブレーキバネを後ろ側に掛けて強くする	34
		ブレーキシューが減っている	ブレーキシューを交換する	34
	ネットが広がらない	通し方が間違っている	通し方を確認する	34
		ブレーキが弱い	ブレーキバネを後ろ側に掛けて強くする	34
		ブレーキシューが減っている	ブレーキシューを交換する	34
	放出後にネットが破れる	巻き数が少ない	巻き数を3回以上にする	33
チャンバー	チャンバーが閉まらない	コンベアセンサが反応していません	センサを調整する	50
		ベール検出センサが反応していません	センサを調整する	51
電装	ベールが自動で放出されない	設定が自動になっていない	設定を自動にする	30
	ネット巻き付け後チャンバーが開かない	ラップマシーンにベールが載っています	ベールを放出する	42
			ベール検出センサを調整する	51
	満了感知しない	「セイケイチュウ」の表示が出ていない	作業前準備を行う。	41
	コントロールボックスの電源が入らない	コードが抜けている	コードを接続する	28
		ヒューズが切れている	ヒューズを交換する	28 29
注油	オイルが出ない	タンクとポンプの配管にエアーが入っている	エアー抜きをする	35
		番手が大きい	番手を32番にする	35
			調整ネジをゆるめる	
	オイルが出すぎる	番手が小さい	番手を32番にする	35
			調整ネジをしめる	
ラップ	アームが回転しない	設定巻き数が0になっている	設定巻き数を8以上にする	32
	ベールが放出されない	放出自動がOFFになっている	「放出」ボタンを押す	30
	フィルム切断が上手くいかない	アルミローラと鉄ローラの位置調整が悪い	鉄ローラの位置を調整する	37

不 調 診 断

●コントロールボックスエラー表示一覧

液晶表示	原因と処置	参照ページ
ｶﾑｴﾗｰ ｶﾑｦｶｸﾆﾝｼﾃｸﾀﾞｻｲ	ネット装置のカムが初期位置にありません ①トラクタ側のコントロールボックスの切換スイッチを「センサチェック」に切換え、カム上・カム下センサの状態を確認してください ②反応がなかった場合はセンサの故障や断線、マグネットの破損が考えられるので確認してください	22 33 52
ﾊﾞｯﾃﾘﾃﾞﾝｱﾂｶﾞ ﾋｸｽｷﾞﾏｽ ﾊﾞｯﾃﾘｦﾃﾝｹﾝ ｾｯﾃﾝｦﾁｪｯｸ	①トラクタのエンジン回転数を上げて3分程してからコントロールボックスの電源を入れ直してください ②改善されない場合、トラクタの取扱説明書に従い、バッテリ、バッテリケーブル、オルタネータを確認してください	28
ｱｰﾑｶﾞ ｽﾞﾚﾃﾏｽ ﾎﾝﾀｲﾉｼｭﾄﾞｳｽｲｯﾁﾃﾞ ｱｰﾑｦｼｮｷｲﾁﾍｱﾜｾﾙ	①本体側コントロールボックスでストレッチアームを初期位置に合わせてください （ストレッチアーム初期位置センサのLEDが点灯） ②改善されない場合、ストレッチアーム初期位置センサを調整してください	31 50
ﾈｯﾄﾏｷｴﾗｰ ﾈｯﾄｦｶｸﾆﾝｺﾞｼｭﾄﾞｳｸﾘﾀﾞｼ	カウントセンサが反応していません ①ネットが切れていないか確認してから手動でネットを繰出してください ②トラクタ側のコントロールボックスの切換スイッチを「センサチェック」に切換え、カウントセンサの状態を確認してください ③反応がなかった場合はセンサの故障や断線、マグネットの破損が考えられるので確認してください	22 33 52
ﾌｨﾙﾑｶﾞｷﾚﾏｼﾀ	①フィルムを交換します ②改善されない場合、フィルム切れセンサを調整してください	50
ﾁｬﾝﾊﾞｶﾞﾋﾗｷﾏｾﾝ	チャンバーが何かに接触をしてしまい動くことができていない可能性があります ①チャンバー周辺を確認し、障害物がないか確認してください ②コントロールボックスでチャンバー開スイッチを入れ、チャンバーが開くか確認してください	31
ﾁｬﾝﾊﾞﾍｲｾﾝｻｶｸﾆﾝ	チャンバー閉センサが反応しません ①チャンバーの合わせ面に付着した材料を取除いてください ②改善されない場合、トラクタ側のコントロールボックスの切換スイッチを「センサチェック」に切換え、チャンバー閉センサの状態を確認してください ③反応がなかった場合はセンサの故障や断線、マグネットの破損が考えられるので確認してください	22 33 53

不 調 診 断

液晶表示	原因と処置	参照 ページ
ﾛｰﾙｦｲﾄﾞｳﾃﾞｷﾏｾﾝ	ベールがリヤチャンバーにくっついている場合、 ベールを引張り落とし、「一時停止」を押してください	43
	ベールがラップマシーンに載っているが、チャンバーが 閉まらない場合、 ①ベール検出センサを調整してください ②「一時停止」を押してください ③改善されない場合は、トラクタ側のコントロールボックスの 切換スイッチを「センサチェック」に切換え、ベール検出 センサの状態を確認してください ④反応がなかった場合は、センサの故障や断線が考えられ ますので確認してください	30 51
ｷﾝｷｭｳﾃｲｼ	ストレッチアームストップ1，2センサが反応しました ①異物を取り除いてください ②改善されない場合、ストレッチアームストップ1，2センサを 調整してください	51
ﾃｰﾌﾞﾙ ｾﾝｻｶｸﾆﾝ	テーブル中間センサが反応しません。 ①本体側コントロールボックスでテーブルが上下できるか 確認してください ②改善されない場合、テーブルセンサを調整してください	50
ﾂｳｼﾝｴﾗｰ	トラクタ側コントロールボックスのコネクタが外れているので、 コネクタを接続し直してください	30
	本体側コントロールボックスのコネクタが外れているので、 コネクタを接続し直してください	31
	緊急停止スイッチが押されています 緊急停止スイッチを解除してください	40

付　　表

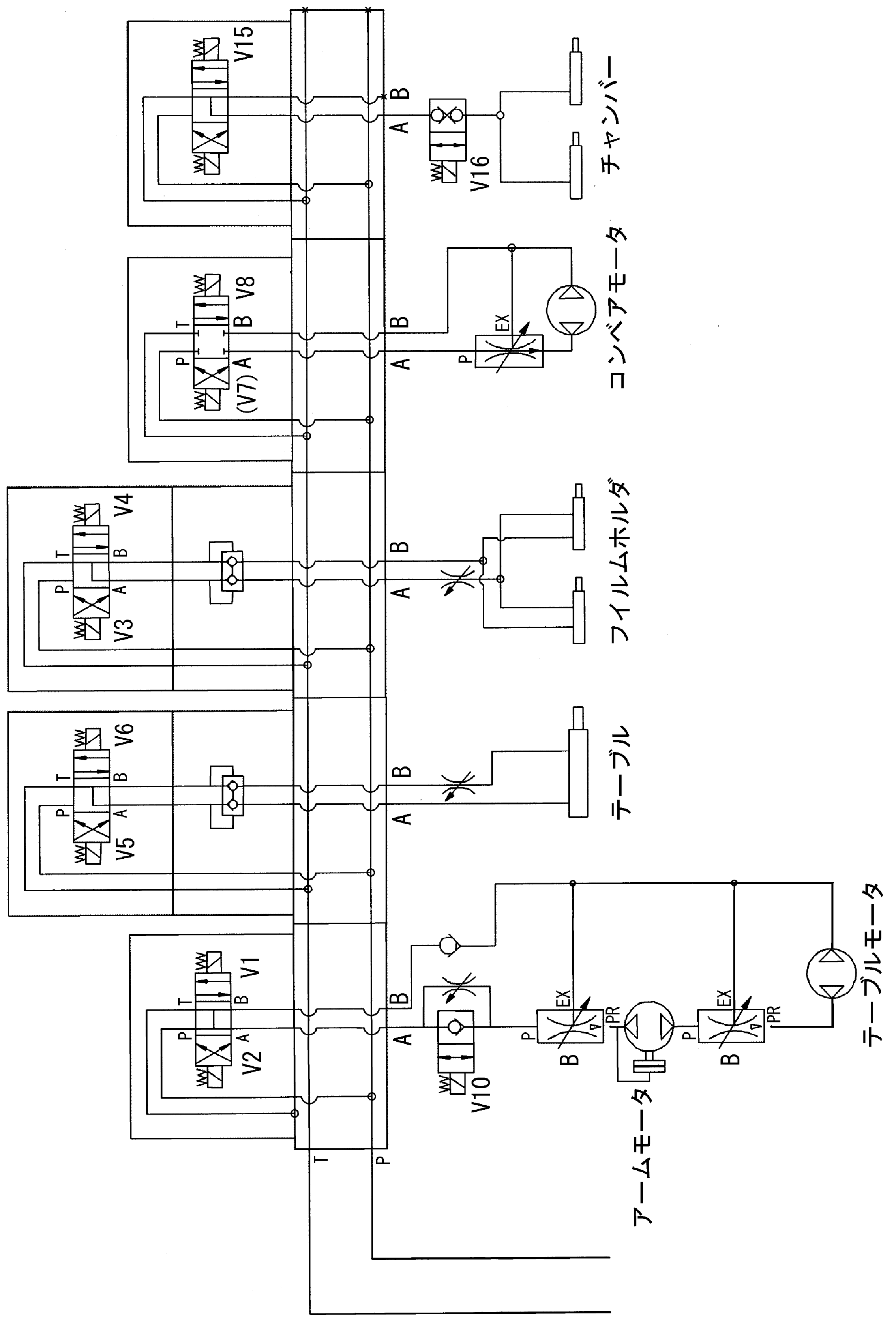
１．主要諸元

型式		CW1084N
名称		中型コンビラップマシーン
装着方法		2P Vヒッチけん引式
駆動方法		PTO駆動（回転速度 450～540min^{-1}(rpm))
適応トラクタ		44．1～73．6kw（60～100PS）
機体寸法	全長	5，500mm
	全幅	2，200mm
	全高	2，200mm
質量		2，435kg
作業幅		170cm
ベール寸法		φ100×100cm
理論切断長		9cm・無切断
チャンバー開閉		内蔵油圧
ラップ部駆動		内蔵油圧
ピックアップ昇降		電動モータ
結束装置		ネット
タイヤサイズ		10．0／80－12 10PR
作業速度		3～6km／h（切断時）
作業能率		9～18分／10a

※この主要諸元は、改良などにより、予告なく変更することがあります。
※上記の質量はユニバーサルジョイントを含みます。

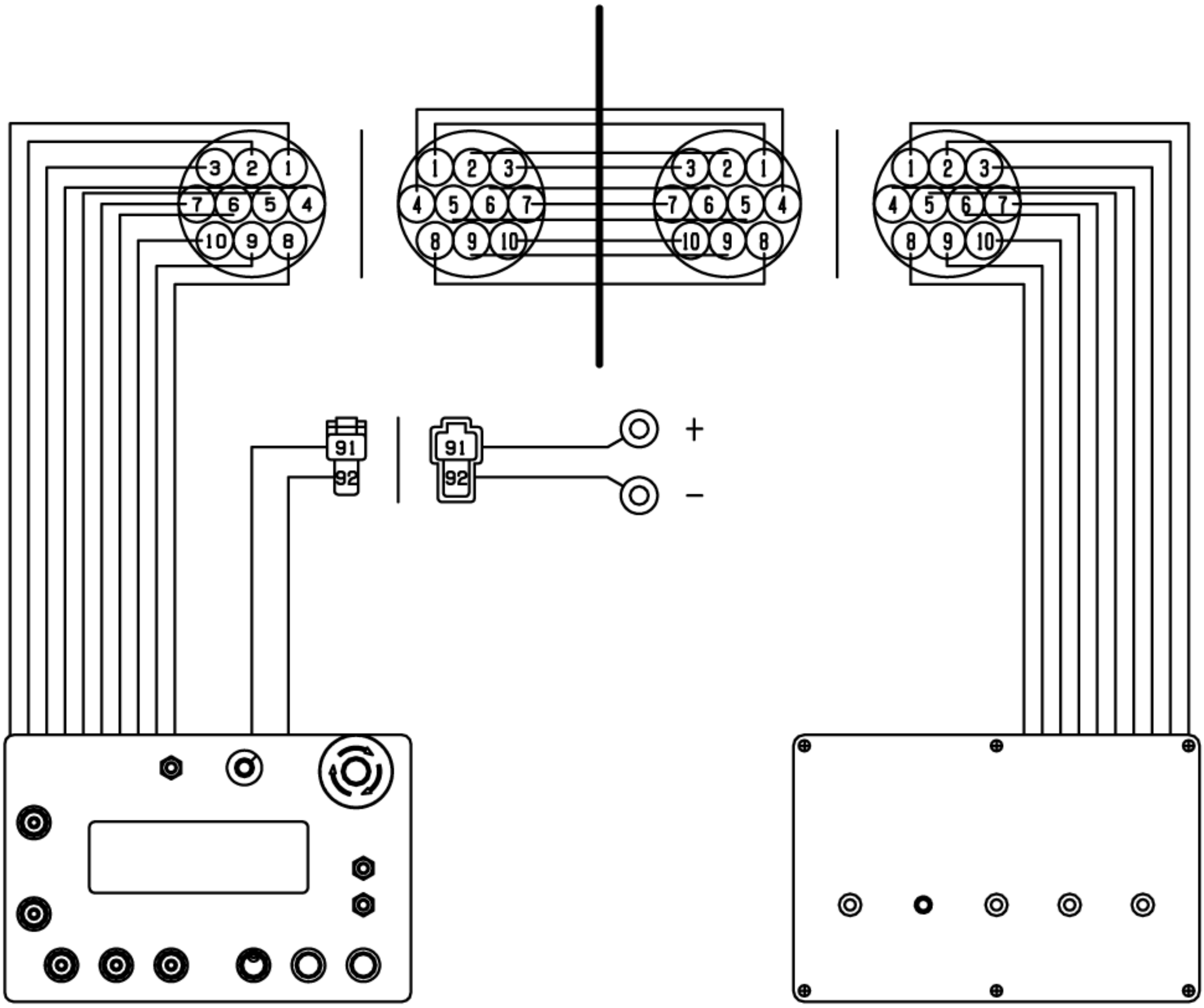
2. 油圧回路

チャンバ開	V2, V15, V16
チャンバ閉	V16
コンベア	V2, V8
グリップカッタ上	V2, V3
グリップカッタ下	V2, V4
テーブル上	V2, V6
テーブル下	V2, V5
ストレッチアーム　高速	V10, V1
ストレッチアーム　低速	V10

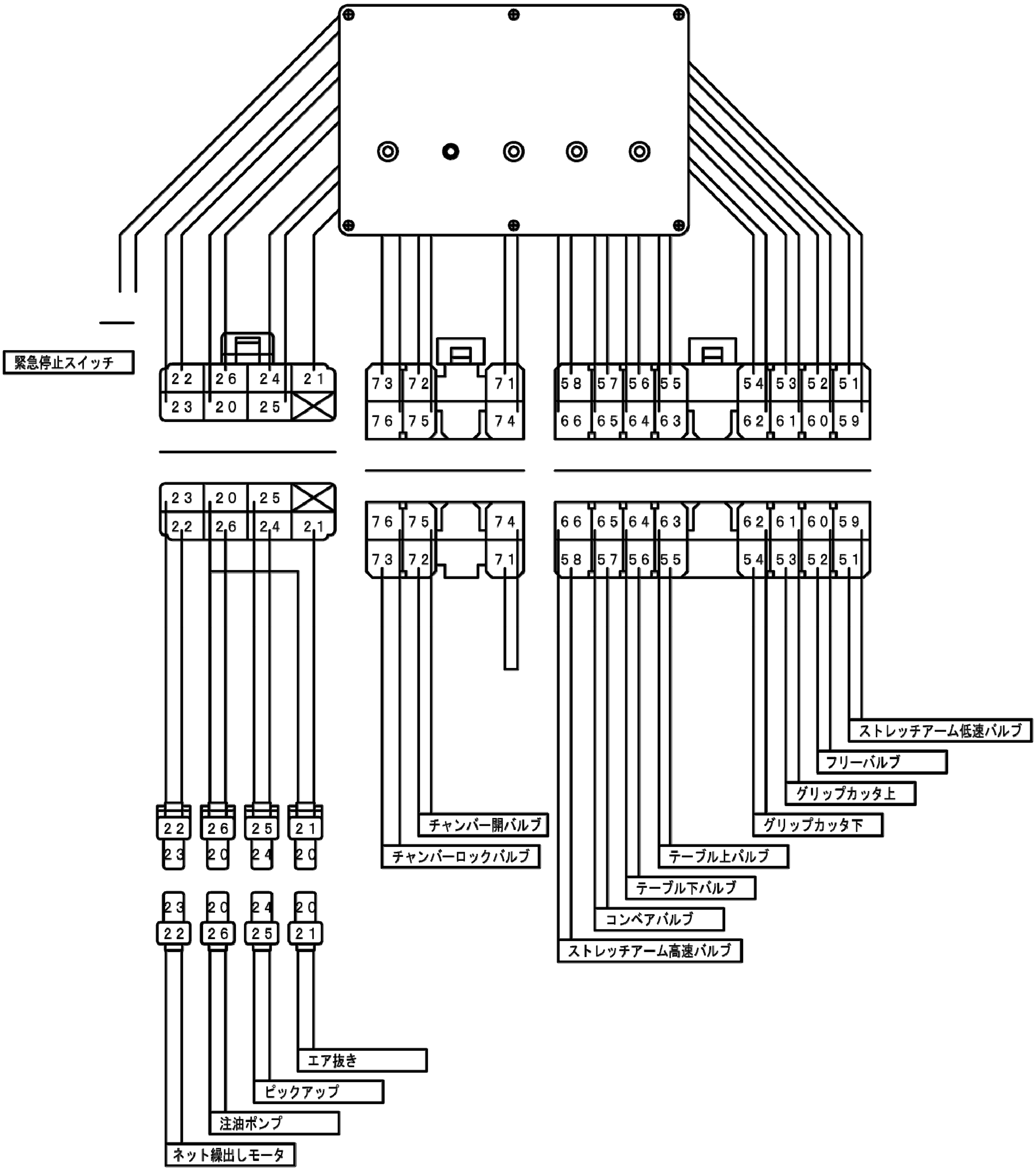


３．配線図

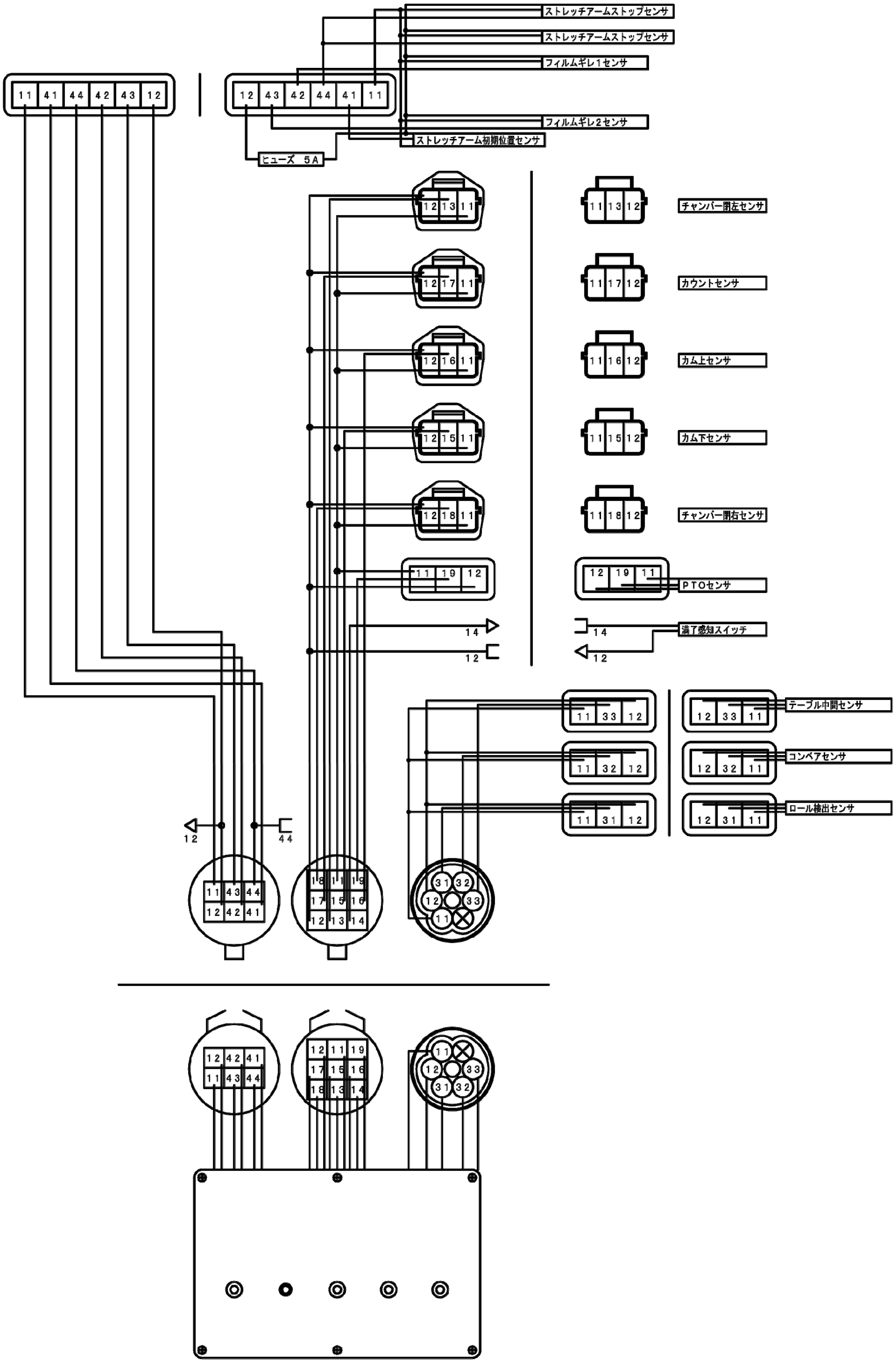
◆コントロールボックス通信部分



◆出力部分

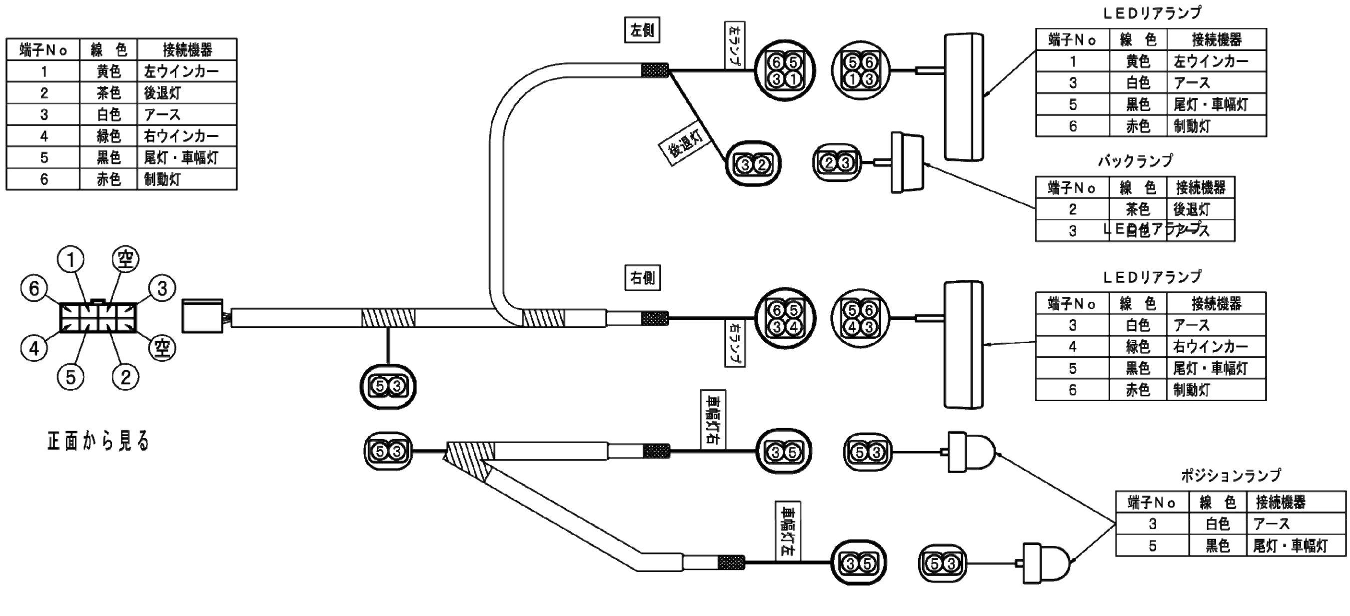

緊急停止スイッチ
22 26 24 21
23 20 25
73 72 71
76 75 74
58 57 56 55 54 53 52 51
66 65 64 63 62 61 60 59
ストレッチアーム低速バルブ
フリーバルブ
グリップカッタ上
グリップカッタ下
テーブル上バルブ
テーブル下バルブ
コンベアバルブ
ストレッチアーム高速バルブ
チャンバー開バルブ
チャンバーロックバルブ
エア抜き
ピックアップ
注油ポンプ
ネット繰出しモータ

◆入力部分


ストレッチアームストップセンサ
ストレッチアームストップセンサ
フィルムギレ1センサ
フィルムギレ2センサ
ストレッチアーム初期位置センサ
ヒューズ 5A
チャンバー閉左センサ
カウントセンサ
カム上センサ
カム下センサ
チャンバー閉右センサ
PTOセンサ
満了感知スイッチ
テーブル中間センサ
コンベアセンサ
ロール検出センサ

付　　表

◆灯火器



端子No	線　色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
2	茶色	後退灯
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯

LEDリアランプ

端子No	線　色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
3	白色	アース
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯

バックランプ

端子No	線　色	接続機器
2	茶色	後退灯
3	白色	アース

LEDリアランプ

端子No	線　色	接続機器
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯

ポジションランプ

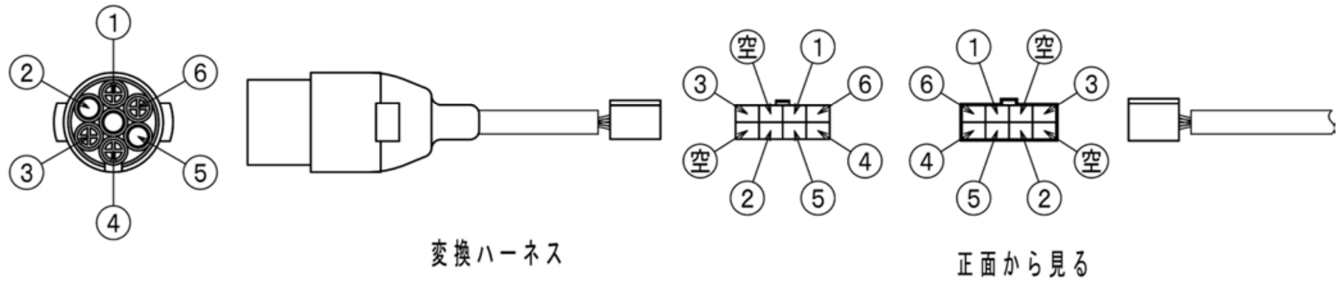
端子No	線　色	接続機器
3	白色	アース
5	黒色	尾灯・車幅灯

◆変換ハーネス

トラクタ側の燈火装置用ソケットが日農工規格で定めるトレーラ用接続コネクタ（CN　8極コネクタ）ではなく、DIN規格品(7PDINソケット)の場合変換ハーネスを取り付けてください。

以下の図のように変換ハーネスを取付けてください。

ハーネスは必要に応じてリピートタイで固定してください。

端子No	線　色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
2	茶色	後退灯
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯

端子No	線　色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
2	茶色	後退灯
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯